

郷土教育推進研究報告書

平成 22 年度

「郷土日野」指導事例

第 6 集

日野市立教育センター

郷土教育推進研究委員会

目 次

「ひのっ子」を誇りに思う郷土教育のすすめ

日野市立教育センター 所長 篠原昭雄

I 研究の概要	1
1. 研究主題	1
2. 研究の趣旨	1
3. 研究の目的	1
4. 重点課題	2
5. 研究構想図	3
6. 研究の進め方	4
(1) 研究の組織	4
(2) 研究の経過	4
II 研究の内容	5
1. 郷土教材を活用した学習指導実践事例	5
(1) 日野の野菜～おひさまのにおいいっぱい、とれたてのやさい～（第2学年 生活科）	5
(2) 日野の果物～梨園見学会～（第3学年 社会・総合）	11
(3) 平山おかぼを育てよう（第4学年 社会・総合）	16
(4) 仲田の森に眠る蚕糸試験場（第3学年 総合）	22
(5) 小学3年生社会科見学の見どころ（第3学年 社会・総合）	28
(6) 新しい街づくり～多摩平の森「昔の生活を調べよう」～（第4学年 社会・総合）	33
(7) 地域の自然を知ろう～多摩平の森の自然・魅力～（第4学年 総合）	38
(8) 雑木林に親しもう～3年生に炭のことをつたえよう～（第4学年 総合）	44
(9) 武士の世の中とくらし～落川遺跡や胎内文書を活用して～（6年社会科）	50
2. 新たに収集・開発した郷土資料・教材	57
(1) 橋（浅川）と人々の生活	57
3. 関係機関との連携・協力の広がり・深まり	64
(1) 市教委文化スポーツ課 「資料・情報の活用について～実践事例からの展開～」	64
(2) 郷土資料館 「真慈悲寺」をめぐる	66
(3) 中央図書館 「図書館の活用と学校環境の整備」	68
(4) 日野図書館「ひのっ子日野宿発見」・中央公民館「市民大学講座～日野学～」	70
4. 郷土教育推進のための普及・啓発	72
(1) 郷土教育を実践する指導者の育成	72
① フィールドワーク	72
② 研修会	76
(2) 郷土教育は校長講話から	77
① 四谷のウナギ	77
② 日野の特産物・東光寺大根「たくあん漬け」	78
③ 三小ができたころ	79
④ つばめの恩返し	80
⑤ ちょうまんびら公園？！	81
III 研究のまとめ ～成果と課題～	82
◎ 郷土教育推進研究委員会委員・協力者名簿	83

「ひのっ子」を誇りに思う郷土教育のすすめ

日野市立教育センター
所長 篠原 昭雄

今年の日野の学校教育は、新学習指導要領と学校教育基本構想の趣旨実現に向けて動いています。前者の「総則」には、“伝統と文化の尊重”とそれを育んできた郷土を愛することが、また、後者の基本構想にも「郷土日野の自然や歴史・文化・産業を生かした」教育を推進し、郷土に対する誇りと愛着を育てることが示されています。ことに近年、日野市では、郷土の自然環境の保全や文化財・史跡の開発が進み、“ひのっ子”“日野人”の学習と意識の啓発が期待されています。どのようにすれば「郷土日野」に愛着と誇りを持つ“ひのっ子”の育成ができるのでしょうか。

『広報ひの』の新年号には、馬場市長と法政大学陣内教授の新春対談が載っていて、“自治”や“地域づくり”の観点から日野の歴史とエコロジー、水辺の環境、用水路と農業に見る水の風景・文化などを通して“日野らしさ”が語られています。その中で、“まちの価値が分かれば誇りが持てる”の言葉に目をひかれました。それは、子どもたちが日野に生まれ育ったことに誇りを持つような意識を生む教育によって育まれるものと考えます。具体的に、先人を含めて“日野人”が生きたどのような自然や風土、文化や歴史、生活の営みを取り上げることによって価値が分かり、誇りを持たせることができるか。それは、まさに“日野らしさ”の特色や“かけがえのなさ”を知ることからにほかなりません。

このような動きの中で、教育センターのふるさと教育係では、学校における「郷土日野」教育の充実を図るため、「郷土教育推進研究委員会」を組織して調査・研究を行い、今年6年目の挑戦を行ってきました。その成果は年ごとの『教育センター紀要』に掲載し、実際の授業に役立てていただくものとして『指導事例集』を毎年刊行してきました。

本年度は、『郷土意識を育む指導のあり方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して』の研究主題で、①郷土教育を推進する指導者の育成……フィールドワークや体験 ②博物館（資料館）、図書館との連携……地域の教育力の活用 ③郷土教材の電子データ化……HPによる普及にそれぞれ力を入れてきました。

研究に当たっては、小杉所員が中島校長先生を中心に、教科担当の先生や市の学芸員、図書館司書などの委員と学識経験の豊かな會田・吉野先生の協力を得て、何回も研究会を開いて検討を重ねてきました。時宜を得た中身の濃い教材の開発や授業に生きる指導法の研究は、これらの方々のこの教育に対する情熱の現れと思います。また本研究は、学校教育関係者をはじめ、地域の教育資源である市の「資料館」「図書館」「歴史館」など社会教育の施設や関係者との共働によるものであることが、この研究の大きな特色でもあります。

本事例集は、その第6集で、前記研究委員の先生方が開発した教材を用いた授業実践を行い、検討しあって授業で活用できるようにまとめたものです。ぜひとも各学校・教科等でHPを含めて活用していただくことをおすすめいたします。

最後になりましたが、本研究会を進めてくださった研究員の先生方、日野市教育委員会、学校教育及び関係機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成23（2011）年3月

I 研究の概要

1 研究主題

郷土意識を育む指導の在り方
～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～

2 研究の趣旨

本研究は、日野市の小・中学校、博物館、図書館、教育委員会、教育センターが連携して推進する6年目の継続研究である。教育基本法、学校教育法、学習指導要領が改正され、教育の目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」の文言が加えられた。本市の「教育基本構想」には、この考え方のもと、第2項に「日野市の自然・歴史・文化・産業等、郷土をより親しく学ぶために、郷土資料を編集し、地域の方々や専門家の協力を得た授業の推進」、第7項に「授業の質の向上を図るために、地域の教育資源を活用した授業の実施」が明記されている。郷土教育が、日野市の教育の最重要課題の一つとなっている。即ち、学校教育では、「郷土に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」の育成が、市民から期待されている。そこで、本委員会では、日野の豊かな自然や歴史的環境を活用した郷土教育を実践し、児童・生徒に日野のよさに気付かせ、郷土を大切に作る心情を育てることが大切であると考えた。そのため、郷土教育推進研究委員会では、郷土の教材化に努め、指導計画を作成し、授業を実践している。そして、この実践と成果を全市の小・中学校に普及・啓発するため、「郷土日野」指導事例集を作成し、市内全小・中学校、関係機関へ配布している。

この趣旨を生かすため、今年度の研究主題を「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」と設定し、重点課題を3点に絞って推進研究と授業実践に当たった。

3 研究の目的

「ふるさと日野に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」を育成するために、学校における郷土教育の在り方を研究する。この研究に基づき、各学校は郷土を活用した様々な教育活動を実践し、次のような児童・生徒を育成することが重要な課題となる。

- 郷土の歴史、自然、文化、産業、人を理解し、感謝の心をもった ひのっ子
- 郷土の特色やよさに気付き、継承・発展させたいと願い、行動する ひのっ子
- 郷土の一員としての自覚と誇りをもち、仲間や郷土の人々と協働できる ひのっ子
- 郷土の未来を思い描き、よりよい郷土の実現を目指して実践できる ひのっ子

4 重点課題

今年度の重点課題を郷土教育の普及・啓発とし、具体的な課題3点を設定した。

- ① 郷土教育を推進する指導者（教員）の育成
- ② 図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
- ③ 郷土教材や実践事例の電子データ化

（１）郷土教育を推進する指導者の育成

- ① 夏期郷土教育研修会（市教委共催）を実施し、各小中学校のリーダーを育成する
 - ・午前 百草・倉沢地区フィールドワーク
 - ・午後 七生緑小学校で実践事例の発表・講義・演習
- ② 郷土教育推進研究委員が各学校、地域で郷土教育のリーダーとなる
 - ・毎月の委員会で、実践報告・協議を重ね、研究を深める
 - ・学識経験者、博物館学芸員、図書館司書から情報・資料の提供と指導・助言を受け、郷土教育の実践に生かす。各委員が授業力を向上させた。

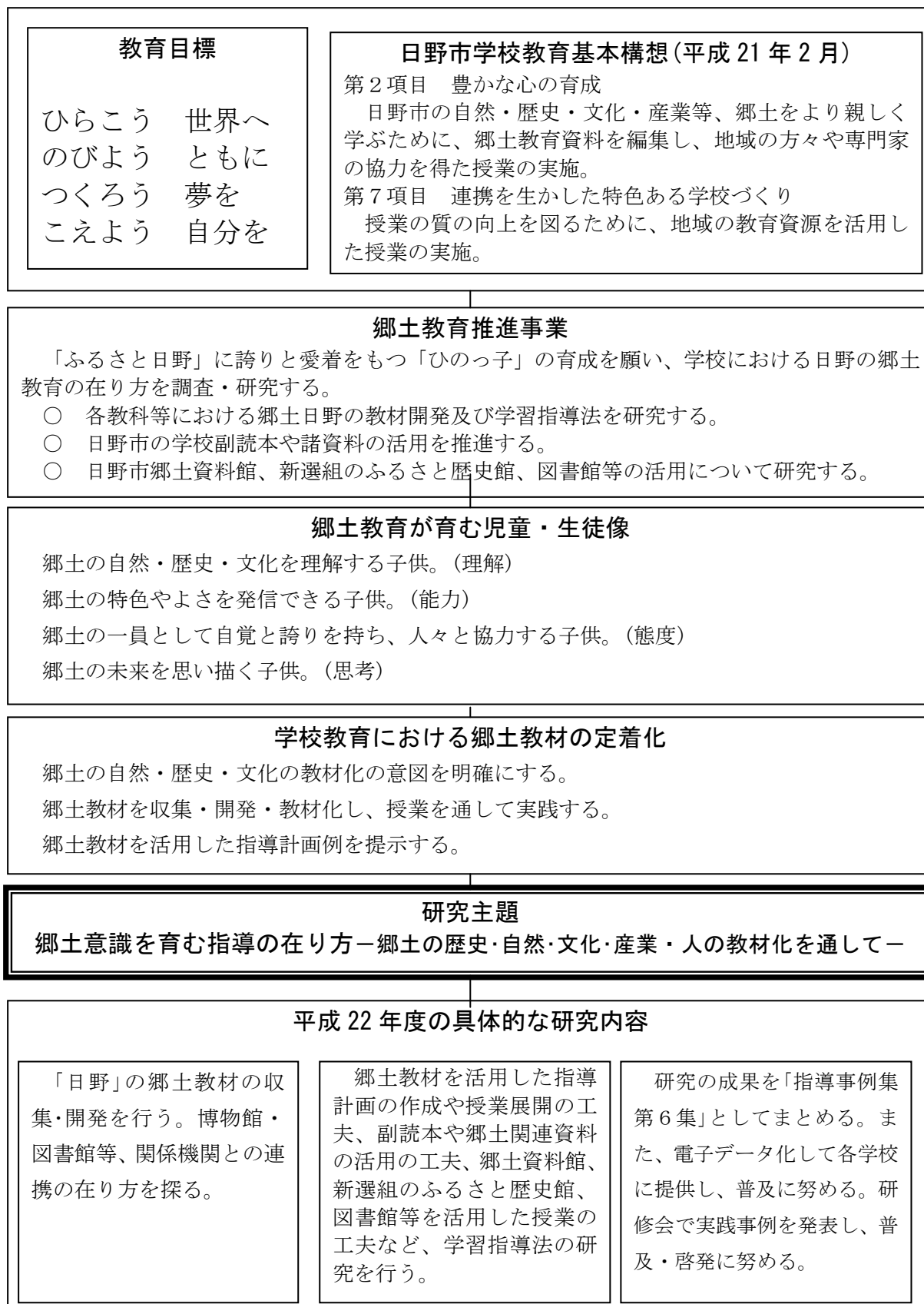
（２）博物館・図書館・文化スポーツ課との連携

- ① 郷土に関する資料や情報が蓄積されている
- ② 蓄積された資料や情報をもとに小・中学校の授業を支援する。協働授業が実施できる
- ③ 本市の博物館・図書館は、学校・市民に開かれた機関で、専門的見地から指導・助言・協働ができる。児童・生徒が興味・関心を高め、意欲的学ぶことが出来る。

（３）郷土教材の電子データ化 教育センターホームページの充実・整備（PDF化）

- ① 郷土日野指導事例 第1集～第5集 全ページが閲覧できる(図版がカラーで見られる)
- ② 郷土日野画像図版資料集 第5集分が完成 写真や図表が、すぐ授業で使える

5 研究構想図



6 研究の進め方

(1) 研究の組織

小学校、郷土資料館、図書館、教育委員会文化スポーツ課、学識経験者を各委員とし、教育委員会指導主事、教育センター所員を事務局として、委員会組織を構成した。

(2) 研究の経過

期日・場所	委員会活動の名称	研究活動の内容
4月8日(木) 日野第一小学校	役員会①	・委員会の構成・組織・内容・年間計画・日程等の打ち合わせ
5月17日(月) 教育センター	郷土教育推進研究委員会①	・委員の委嘱・組織づくり・本年度の活動内容の検討・研究活動日程の検討
6月15日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材収集・開発の視点検討(学年、地域) ・フィールドワークのねらい、地域の検討
7月21日(水) 百草・倉沢地区	フィールドワーク実地踏査	・市教委「教育課題研修～郷土教育～」と共催事業の事前調査、内容の検討
7月26日(月) 百草・倉沢地区 七生緑小学校	郷土教育推進研究委員会③ フィールドワーク実施と教材化の講義・演習	・フィールドワーク(百草図書館、百草園、真慈悲寺調査センター、由木農場、万蔵院台古墳群) ・室内研修(事例発表、講義、教材化の演習)
8月27日(金) 教育センター	郷土教育推進研究委員会④	・フィールドワークの反省、まとめ ・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・中間報告会の内容検討と発表者の決定
9月16日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・中間報告会の発表原稿検討 ・実践事例第6集のプロット案検討
10月14日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑥	・中間報告会の発表原稿検討、リハーサル ・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議
10月22日(金) 教育センター	教育センター中間報告会 郷土教育推進研究委員会⑦	・事前リハーサル、中間報告 ・中間報告会の反省、研究発表会の内容検討
11月17日(水) 日野第一小学校	役員会②	・研究発表会までの日程、内容、方法の検討 ・実践事例第6集プロット案検討、作業日程確認
12月28日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑧	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会と実践事例第6集の内容決定、
1月20日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑨	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会の発表原稿検討
2月7日(月) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑩	・研究発表会発表原稿検討、リハーサル ・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議
2月22日(火) 教育センター	教育センター研究発表会 郷土教育推進研究委員会⑪	・事前リハーサル、研究発表 ・研究発表会の反省、実践事例第6集作成手順
3月7日(月)		・「郷土日野」指導事例第6集 業者原稿入稿
4月20日(水)		・「郷土日野」指導事例第6集 業者納品
4～5月		・関係機関へ発送・電子データ化(HP公開)

Ⅱ 研究の内容

1 郷土教材を活用した学習指導実践事例

(1) 日野の野菜～おひさまのにおいっばい とれたてのやさい～ (第2学年 生活)

1. 教材化の意図

日野市には畑や田んぼが見られる地域が残っている。二小の学区域の川辺堀之内地区にも畑や田んぼがあり、給食の野菜を仕入れることもある。児童は、川辺堀之内産の野菜が給食に出ていることを、栄養士さんのお便りや献立表で知っている。しかし、実際に畑を見たことのある児童は限られており、また、近年の宅地開発で田んぼは減少の一途を辿っている。そこで、児童に、身近な場所でも農業に従事している人がいることを知らせ、日野市の農業について考えさせたいと思い、この単元の教材化を図った。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ・自分たちの育てる野菜に興味を持ち、大切にしようという気持ちを持つ。
- ・日野市でもいろいろな種類の野菜が育てられていることを知り、給食にも使われていることに興味を持つ。また、農家の人の話を聞いて、日野市の農業について関心を持つ。

(2) 単元の指導計画 (全12時間)

	主な学習活動と内容	備考(資料・郷土教材など)
つかむ3	○ 夏に採れる野菜をいくつか選んで、育てることを知り、興味を持つ。 ○ 話し合って決めた野菜(ピーマン・ナス・トマト・きゅうり)の中で、自分の育てたい野菜を選び、同じ野菜を育てたい児童3～4人ごとに班を決める。 ○ 自分たちの選んだ野菜の苗を植える。	・夏に採れる野菜にはどんなものがあるか、家で聞いてくるように指導する。 ・第二校庭の学年の畑を使い、育てやすい野菜を選んで、苗を植える。 ・トマトは日野市の特産品になっているので、選ぶ野菜の中に加える。
深める5	○ 草むしりをしたり、観察をしたりする。 ○ 日野で作られている野菜がいろいろあること、給食に学域内の川辺堀之内で育てられた野菜が使われていることを知り、日野市の農業に興味を持つ。 ○ 栄養士さんに、学区域にも農家があり、いろいろな野菜を育てていること、普	・日野の野菜クイズを通して、日野市ではいろいろな野菜が育てられていることを知るようにし、興味を持たせる。 ・日野市内で作られている種類の野菜でも、他の地域から仕入れているものがあることから、なぜそのようにするのかを考えさせる。 ・日野市の野菜は旬の時期にのみ作られているので、入荷の時期が限られていることや、

	段の給食でもその野菜が使われていること、また、なぜ地域で育てられて入る野菜を使うときと使わないときがあるのかを話してもらう。 ○ 地域の農家の人に来ていただき、話をしてもらう。	入荷できる量も決まっているので、いつも使えるわけではないことを知る。また、それでも地元の野菜を使うことに意義やよさについて考えさせるようにする。 ・事前にどんなことを質問したいか考えさせ、まとめたものを農家の方に届けておく。 ・野菜を育てる上で大変なこと、嬉しいことなどを話していただく。
まとめ 4	○ 栄養士さんや農家の人に聞いた話で心に残ったこと、野菜の栽培活動を通して考えたこと思ったことを書く。 ○ 農家の人へお礼の手紙を書く。 ○ 野菜の世話、収穫活動を行なう。 ○ 家に持ち帰った野菜をどのようにして食べたか発表する。	・考えたことを発表する場を設ける。 ・話を伺って学んだこと、役に立ったことなどを中心に、お礼の手紙を書くように指導する。 ・野菜を育てることの喜びを味わえるようにする。

3. 本時の展開（8／12）

（1）本時のねらい

・日野市でもいろいろな野菜を育てていることを知り、農業を身近に感じたり、興味を持ったりすることができる。

（2）本時の展開

	学習活動	○支援 ◇評価
導入	1、農家の人に聞いてみたいことを確認する。	○前時に児童や出した質問事項をワークシートにまとめておく。 ○質問事項は事前に農家の人に渡しておく。
展開	2、話を聞いて、分かったことをワークシートに記入する。（詳しい内容は下記参照）	○聞いたことを全部を書くのではなく、大事だと思ったところだけを書くように助言する。 ○次の時間にまとめる時間をとることを伝え、書くことに集中し過ぎないようにする。まずはよく話を聞くように指導する。 ○難しい言葉が出てきたら、後で補足するようにしたり、農家の人に2年生には理解しにくいことを伝える。

	3、話を聞いて、新たに疑問に思ったことを質問する。 (詳しい内容は下記参照)	○ワークシートに追加の質問を書く欄を設けておく。
まとめ	4、農家の人にお礼を言う。	【関心・意欲】 メモをとろうとしている。

★児童からの主な質問と伊藤さんの答え

- ・一番好きな野菜は何ですか？
- ・一番育てたい野菜は何ですか？
- ・どうしてトマトを育てているのですか？

→トマトはお米のように1年かからずに育てて、出荷することが出来る。美味しいトマトは、育てるのが難しく、やりがいがある。

- ・どうして野菜には旬があるのですか？

→もともとは野生のもの、自然に育ってきたものだから、育ちやすい季節や場所がある。

- ・じゃがいも、ミニトマトの旬はいつですか？

→日野市のじゃがいもは今（7月上旬）が旬。地域によって、同じ野菜でも旬は異なる。

- ・野菜がおいしくなる育て方がありますか？

→愛情を持って、世話をすること。よく肥料をあげて水をやること。

- ・トマトやミニトマトはどうして、途中で色が変わるのですか？

→リコピンという成分があるため。リコピンは癌の予防にも効くから、たくさん食べて、癌にならないようにしてください。

- ・トマトはどうしたら甘くなりますか？

→色が赤くなり始めたら水をあげないこと。

- ・どうしてきゅうりには、ぼつぼつがあるんですか？

→自分の実（身）を外敵（虫など）から守るため。新鮮なきゅうりのほうがぼつぼつがある。

★新たに疑問に思ったこと。

- ・朝は、何時に起きて仕事をするのですか。

→四時に起きて犬の散歩をして、5時からトマトの収穫をする。今は一日200キロのトマトを妻と二人で採る。

- ・川辺堀の内には今何軒くらいの農家がありますか。

→今は30軒くらいだが、どの家も兼業農家である。アパートなどを経営している農家も

多い。農業だけでは食べていけないのがその理由。

・伊藤さんはどうして農家になったのですか。

→親が農家だったのでそれを継いだ。兄がいたけれど学校の先生になったので、次男の自分が家業を継いだ。

4. 成果と課題

成果

児童は、給食に日野市で作られた野菜が使われていることは、給食便りから知ってはいるものの、それが学区域内の川辺堀之内で作られていることやその意義については考えたことはなかった。栄養士さんの授業や日野の野菜クイズを通して、何故給食に地元の野菜が使われるのかを考えるきっかけ作りは出来たように思う。どうして地元の野菜を使うときもあれば使わないときもあるのか、という質問に対して、児童がそれぞれの頭で考え、いろいろな答えを導き出していた。その答えを栄養士さんから直接聞くことによって、意欲を持続させることが出来た。また、栄養士さんの授業を通して、野菜には花や果物と同じように美味しく、たくさん採れる季節【旬】があることを知り、普段の給食にも旬の食材を取り入れていることを学習することができた。

また、農家の人に来てもらうことにより、いつも給食便りで聞いている名前や野菜をより身近に感じる事が出来、自分たちの育てている野菜の世話を頑張ろうという気持ちにもつながったように思う。

課題

児童が農家の人に聞きたいことは、どうすれば自分たちの育てている野菜がより美味しく大きく育てることが出来るかということが中心であり、日野市の農業の特徴などに触れることは出来なかった。2年生にとっては、難しい課題であったので仕方がなかったと思う。ただ、農家の人野菜に愛情を持っていることや、その仕事が大変なことは分かったので、それは大きな学びになったと思われる。

また、栄養士さんや農家の人に来てもらって話を聞く際、聞きながらメモをとるということは、まだほとんど経験をしたことがなく、指導が必要であることが分かった。後の時間で、全体で覚えていることを出し合ってまとめる時間を作ったが、記憶に頼ることになってしまった。

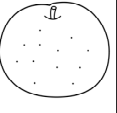
5. 資料（ワークシート）

- ①ひののやさいクイズ
- ②ひののやさいクイズ2
- ③えいようしさんから聞いたことのまとめ
- ④いとうみのるさんにしつもんしたいこと
- ⑤農家の人への手紙

ひののやさいクイズ

名前 ()

ひのしで作られていると思うやさいやくだものに丸をつけましょう。

かぼちゃ	キャベツ	こまつな	はくさい
			
だいこん	トマト	なす	にんじん
			
とうもろこし	こめ	ねぎ	たまねぎ
			
さといも	なし	りんご	ブルーベリー
			

ひののやさいクイズ2

名前 ()

1、2年生になってから、かわべほりのうちでつくられたやさいは、

なんしゅるい きゅう食に出たでしょうか？

よそう	しゅるい	せいかい	しゅるい
-----	------	------	------

2、どんなやさいがきゅう食に出たか、これまでのおたよりのないよう思い出して、なるべくたくさん書いてみましょう。

3、ひのしでつくっているやさいでも、きゅう食につかわれていないものがあるのはなぜでしょうか。また、どうしてひのしのやさいをつかうことがあるのでしょうか。かんがえてみましょう。

えいようしさんから聞いたことのまとめ

名前 ()

1、やさいがおいしく、えいようのたくさんあるきせつをな
んというでしょうか。

2、ひのしのやさいのいいところはなんでしょうか。

3、どうしてひのしのやさいをつかわないときもあるの
でしょうか。

いとうみのるさんにしつもんしたいこと

名前 ()

ーばんすきなやさいは なんですか？

1ばんそだてたいやさいは なんですか？

どうしてトマトをそだてているのですか？

どうしてやさいにはしゅんがあるのですか？

じゃがいも、ミニトマトのしゅんはいつですか？

やさいがおいしくなる そだてかたはありますか？

いとうさんのトマトのそだてかたは、ぼくたちのやりかたと同じですか？

トマトやミニトマトはどうして、とちゅうで色がかわるのですか？

ミニトマトはどのくらいの赤色でとるのがおいしいですか？（普通の赤か濃い赤）

トマトやミニトマトがおいしくそだつほうほうはありますか？

トマトはどうしたらあまくなりますか？

大きいトマトをそだてるには どうしたらいいですか？

きゅうりをまっすぐにそだてるには どうしたらいいですか？

きゅうりがおいしくそだつほうほうはありますか？

きゅうりはなんセンチくらいになったら とるのがいいですか？

えいようたっぶりのきゅうりをそだてるには どうしたらいいですか？

どうしてきゅうりには ぼつぼつがあるんですか？

なすがおいしくて、大きくそだつほうほうはありますか？

農家の人への手紙

いとうみのるさんへ

トマトやピーマンがナス科なんて、しりませんでした。どうしてやさいの花を見ると、これはナスだとすぐにわかるのですか？いとうみのるさんが一番作っているものがトマトなんてしりませんでした。いろいろなことを教えてくれてありがとうございます。とてもよく分かりました。

いとうみのるさんへ

とくにわかったことは、いとうさんがすきなやさいです。ぼくはトマトがきらいでした。だけど食べてみたらおいしかったので、すきになりました。今、やくにたっていることは、お店にうっているぐらいのきゅうりをとったほうがいいって言ってたので、そのぐらいでとてみて、家にもちかえて食べたら、おいしかったです。

いとうみのるさんへ

いとうみのるさんがトマトやミニトマトをどうやったらあまくできるのかがわかりました。トマトやミニトマトをあまくするには、赤くなってきたら水をあげないでしたよね。じっこうしています。じっこうしたら、ほんとうにあまくなっていました。

いとうみのるさんへ

いとうみのるさんがちょっと赤くなったらあんまり水をやらないでっていいました。だからぼくはあんまり水をやりませんでした。そうしたら、おいしくなりました。あんまり水をやらないほうがいいんだと、おもいました。あんまり水をやなくてよかったです。

いとうみのるさんへ

トマトの中にリコピンと言うやつがはいっていた。だからトマトもいっぱい食べるようになったし、いとうみのるさんがなんでほりのうちでやっているのかがよく分かりました。

いとうみのるさんへ

この前はきてくださってありがとうございます。トマトのリコピンの話やきゅうりにはなぜイボイボがある？などの話をきかせてもらってとってもうれしかったです。あくしゅもできてうれしかったです。これからもがんばってください。

いとうみのるさんへ

いつもやさいをとどけてくれてありがとうございます。きゅうしょくで食べたやさいはとってもおいしいです。やさいが1ばんおいしいので、1ばんすきなのがトマトです。伊藤さんがつくったやさいはおいしいです。やさいはとってもおいしいです。

（２） 日野の果物～梨園見学会～

「日野の梨について 調べたことをまとめ発表しよう」

（第３学年 社会・総合的な学習の時間）

１．教材化の意図

日野では、日野名産の梨の即売が日野市果実組合主催で行われている。また、本校のある東光寺地区では、梨が生産されている。梨にはいろいろな品類があり、収穫の時期によって三種類(早生品種の『幸水・稲城』、中生品種の『二十世紀・豊水』、晩生品種の『あたご・新高』)に分けられる。学校給食にも納品してくださり、東光寺の児童はおいしくいただいている。昔は梨の生産をしている家が多かったが、最近では、減少傾向にある。そのような中で、東光寺地区にある梨園を年間を通して見学させることで、生産者(奥住方彦さん)の梨作りに対する願いや苦勞を知り、食べ物を大切にする心と感謝の気持ちを養わせたいと考える。また、給食の材料の提供者との交流をもつことで、東光寺地区で梨の生産をしていることへの誇りをもたせたい。

２．指導計画

第３学年 総合的な学習の時間 「梨園見学をしよう」 社会科「農家の仕事」

（１）単元の目標

- ・社会科「農家の仕事」の単元、及び総合的な学習の時間の発展教材として、梨作り農家を見学し、１年間の梨作りの仕事を知る。
- ・生産者の梨作りに対する願いや苦勞を知り、食べ物を大切にする心と感謝の気持ちを養う。
- ・給食の材料を提供してくださっている地域の方と交流をもつ。

（２）単元の指導計画(全時間)

	主な学習活動と内容	○教師の働きかけ ☆評価
気づく	<u>東光寺地区で生産されている梨について知ろう(１時間)</u> ●梨の生産者(奥住方彦さん)の話を聞く。 <u>梨園の観察をしよう(１２時間)</u> ●梨の花(２) ●摘果作業(２) ●袋がけ作業(２) ●かん水(※天候不良のため観察を実施せず)(２) ●収穫(２) ●収穫後の梨園(２)	○生産者の方に日野の梨についての歴史や梨の特徴について話していただく。 ○梨の花(４月) 摘果・袋がけ(５月) かん水(７月) 収穫(９月) 収穫後の梨園観察(１２月) 計１２時間の体験的な活動である。 ○活動後には、活動の様子や活動を通して気づいたことを学習カードに記入させる。 ○それぞれの観察の様子をカメラにおさめておく【見通す】【追究する】の時に児童が活動を振り返ることができる。 ☆梨に興味をもち、活動に意欲的に参加している。

見 通 す	<u>課題を決めよう(2時間)</u> ●ここまでの学習や体験的な活動を通してわかったことや、もっと知りたいことを発表し、調べたいことを決める。 (実際に出た調べたいことの例) ・ 梨の歴史 ・ 梨を使った料理 ・ 東光小学校の給食に出てきた梨の料理集 ・ ほかの地区で作られている梨 ・ 梨の種類や産地 など	○梨について調べたいことや知りたいことを発表させ、グループで活動させる。 ☆梨についての自分なりの課題を見つけることができる。
追 究 す る	<u>梨について調べよう(5時間)</u> ●課題別のグループに分かれて、調べ学習の計画を立てる。 ●自分たちで考えた方法で、梨について調べる。 ・ 図書室や図書館で調べる。 ・ 地域の方や生産者の話を聞く。 ・ インターネットで調べる。(※パソコン活用の指導が必要)	☆グループでの話し合いを通して、新たな疑問や課題を見つけることができる。 ○地域の方や生産者の話を聞く機会を設け、地域の方たちとの交流を深めさせる。 ☆情報収集の方法を知り、それを活用できる。
表 現 す る	<u>わかったことを発表しよう(3時間)</u> ●表現方法を考える。 (出てきた表現方法の例) ・ 壁新聞 ・ 模造紙 ・ 紙芝居 ・ ペープサート など ●発表会の準備を行う。 ・ 学級で発表会を行う。 ・ 友達からもらったアドバイスをもとに見直す。 ●2年生に向けて発表会を行う	○グループで調べたことをどのような方法で表現するのかを考えさせる。 ○各グループの発表をアドバイスカードで評価し、コメントを入れさせる。 ○コメントをもとに発表の改善をさせる。 ☆調べたことや自分の考えを聞きやすい声の大きさ・速さ、分かりやすい言葉づかいで相手に伝えることができる。
ふ り か え る	<u>これまでの学習をふりかえろう(2時間)</u> ●体験的な活動や、調べ学習を振り返り、取り組んできた感想を書く。 ●農家の方にお礼の手紙を書く。	☆生産者の梨作りに対する願いや苦勞がわかり、食べ物を大切にすることと感謝の気持ちが表現されている。

3. 梨園見学 見学・活動の様子

●生産者の話と花の観察



4月、花が満開になった梨園に行き、生産者(奥住方彦さん)から梨についてのいろいろな話を教えてもらいました。花の様子もわかり大変に興味・関心が高まりました。

●摘果・袋がけ作業



●梨の実の収穫



●児童の学習カードと壁新聞

【学習カード】

梨園見学2回目

三 年 組 名 前

()

☆ 奥住さんに、しつもんしたいこと

☆ 分かったこと

【壁新聞】



4. 梨について

(1) 梨の歴史

梨は、日本で栽培される果物の中でも歴史が古く、弥生時代にはすでに食べられていたそうです。また日本書紀にも栽培の記述が残っており、江戸時代には品種も増加しています。現在のような甘みが強く果肉のやわらかい梨は明治以降に品種改良されたものです。

(2) 梨の種類

●幸水について

「菊水」と「早生幸蔵」を交配し、1959年（昭和34年）に登場した赤梨。現在では日本梨の約40%を占める代表的な品種です。果実は約250～300gの扁円形で、お尻の部分が大きくへこんでいるのが特徴。やわらかい果肉には果汁がたっぷり含まれ、ひと口食べると強い甘みが広がります。果皮は基本的に褐色ですが、やや黄緑がかったものもあります。出荷は8月上旬頃から。

●豊水について

350～400gほどになる大きめの赤梨。幸水と並んで生産量が多く、2004年（平成16年）の統計では日本梨の約25%を占めています。1972年（昭和47年）に「菊水×八雲」×「八雲」として品種登録されましたが、その後のDNA鑑定により親子関係が誤りとされ、現在では「幸水」×「石井早生×二十世紀」の可能性が高いといわれています。日持ちがよく、果肉はやわらかで多汁。甘みの中に適度な酸味があります。店頭に並ぶのは8月下旬頃からです。

●新高について

新潟の「天の川」と高知の「今村秋」を交配し、それぞれの地名を取って1927年（昭和2年）に「新高」と命名されました。サイズは平均450～500g程度で、大きなものでは1kgにもなるビッグサイズの赤梨です。酸味が少なく、みずみずしく風味豊かな甘さを持ちます。特に高知など温暖な土地で栽培されたものは糖度が高いようです。店頭に並びはじめるのは9月上旬頃から。

●二十世紀について

鳥取のブランド梨としても有名な青梨の代表品種。1888年（明治21年）に千葉県で偶然発見されました。果皮はきれいな黄緑でサイズは約300g前後の中玉。多汁でシャリシャリとした果肉には甘みと酸味がバランスよく調和しています。なお「ゴールド二十世紀」は、病気に強い品種として二十世紀を改良したものです。また、「おさ二十世紀」から育成された「瑞秋」は、「二十一世紀梨」として商標登録され2005年秋から出荷されています。

●あたごについて

平均1kgにもなる大きな梨で、11月下旬頃から店頭に並ぶ晩生種です。「二十世紀」×「今村秋」が親とされていますが、正確な来歴は不明です。果肉は柔らかめで、甘みと酸味が調和し瑞々しい食感が味わえます。

引用：「果物情報サイト～果物ナビ～」

<http://www.kudamononavi.com/zukan/jpnpear.htm>

(3) 平山陸稲（おかぼ）を育てよう

(第4学年 社会・道徳・総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

林丈太郎が発見した「丈太郎陸稲」は、さらに改良されて「平山陸稲」と命名された。この全国に知られた「平山陸稲」もいつしか栽培されなくなり、林丈太郎の名前も忘れられがちであった。平山小学校開校130周年記念の年、当時の品田敏男校長の呼びかけで、JA農協青年部の小林和男氏が動き、ついに、筑波の農業試験場で種籾を発見した。その後、平山小学校で栽培され、平山陸稲が復活した。即ち、平山小学校なくして平山陸稲はないのである。本校では、この「平山陸稲」の栽培を伝統とし、継承を誓った。本校児童は、平山陸稲の栽培を通して、さらに林丈太郎の生き方を学んで、「ふるさと平山」・「平山小学校」に誇りと愛着をもつことができる。

2. 単元目標

- ・体験的な活動や調べることを通して平山陸稲について学び、自分たちの住んでいる地域のよさを感じ、郷土への誇りと愛情を育てる。
- ・林丈太郎について調べ、その役割、苦労や願い、地域をよりよくしようとした思いを理解する。

3. 体験的な活動と学習活動の関連

◎平山おかぼのこよみ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
体験的な活動	・畑の耕し ・もみふり	・鳥よけネット				・ネットとり	・稲刈りと掛けほし	・脱穀 ・もみすり	・調理 ・試食
	・水選と種まき (・間引き)								
	・草とり								
学習活動	課題を決める	調べ学習を進める				調べたことを発表する		ふりかえる	
	種もみの観察								
	林丈太郎について学ぶ								
	道徳 「平山おかぼ」		社会 「地域の発展につくした人々」						

4. 学習指導計画（全15時間）

	学習活動と内容	○教師の働きかけ☆評価
気づく	平山陸稲について知ろう（1時間） ○平山陸稲のもみを観察しよう。 ・色・形・大きさ・手触り ・種の先にある針のような毛が長い(のぎ・のげ) ・お米との違い ・なぜ平山という名前がついているのだろう？	○平山陸稲は畑で育つなどの特徴や歴史的背景について話す。 ○各活動後には、活動の様子や活動を通して気づいたことを観察カードに書かせる。 ☆平山陸稲について興味をもち、活動に意欲的に参加している。
	「平山」の名がついた、平山陸稲について調べよう。	

見 通 す	課題を決める（２時間） ○これまでの体験的な活動を通してわかったことや、もっと知りたいことを話し合い、自分が調べたいことを決める。 ・陸稲の育て方・陸稲の長所・米の種類 ・陸稲の敵（害虫）・陸稲を使った料理 ・陸稲の歴史・陸稲が作られている地域 ・水稲とのちがい ・林丈太郎について・当時の人々の思い ○調べる方法について話し合う。 ・図書室や図書館で調べる ・学校の記念誌や副読本を読む ・農家やＪＡの方へインタビューする ・インターネットで調べる ・平山小学校の副読本で調べる。	○平山陸稲に限らず、調べたいことが稲に関することや地域で育てている野菜に及んでもよいことにする。 ○調べる課題ごとにグループを組む。 ☆友達との話し合いを通し、新たな疑問や課題を見つけることができる。
追 求 す る	平山陸稲について調べよう（５時間） ○課題別に分かれて、調べ学習を進める。 ○自分たちで考えた方法で、調べ学習の計画を立てる。	○地域の方へインタビューする機会を設け、交流できるようにする。 ☆情報収集の方法を知り、情報を集めることができる。
表 現 す る	調べたことを発表しよう（５時間） ○グループごとに調べたことを模造紙にまとめる。 ○発表会に向けて発表練習をする。 ○友達からもらったアドバイスをもとに自分たちの発表内容を見直す。 ○学年合同で発表会を行う。	○別の班の発表を聞き、アドバイスカードとシールで評価させる。 ☆相手に伝わるように、声の大きさ・速さ、分かりやすい言葉遣いに注意して発表することができる。 ○発表会で使用したポスターやイラストは、図書館やＪＡの施設などで掲示できると、平山陸稲を地域へ伝えることができる。
ふ り か え る	これまでの学習をふりかえろう（２時間） ○体験的な活動や、調べ学習をふりかえり、取り組んできた感想を文章にまとめる。 ○農業指導者へお礼のお手紙を書く。	○日野市に住む小学生が陸稲を育てることの意味・大切さについて、考えを深めることができるようにする。（地域への愛着・誇り） ☆平山陸稲を育てたこと・調べ学習で学んだことを通して、現在の自分の生活や地域との関わりについて考えている。

5. 関連する単元等

- ・第４学年 社会「地域の発展につくした人々」 日野市副読本「わたしたちの日野」
- ・第４学年 道徳 １－(2)不とう不屈、希望、勇気 ４－(4)勤労・社会奉仕
みんなのどうとく（多摩版）「平山おかぼ」学研

6. 体験的な活動の実際

もみふり 4月（育苗箱）

もみは一日水につけて沈んだものを乾かす。育苗箱にもみを均等にふりかける。



均等にふりかけるのは、
むずかしかったです。

育苗箱の中で、どれだけ大
きくなるのかな？はやく
畑に植えたいです。

苗植え 5月

児童の手で一つ一つ植える。直まきも行い、成長のちがいを比較する。



小林さんが育てた苗は
大きくて緑がきれいで
した。



種をまいた後、土をかぶ
せて軽くたたきといい
と、小林さんに教わりま
した。



直まきのものと苗から
植えたものと育ちが
ぜんぜんちがいました。

草取り・間引き・鳥よけネット

学年合同で草取りと観察を行う。夏休み期間は、保護者と一緒に草取りと観察を行うようにする。夏休みのはじめと終わりに観察を行えると成長の違いがはっきりとわかる。



草取りに少行かないと、す
ぐに雑草が伸びてしまう。
草取りは大変だったけれ
ど、たくさんぬきました。



前より雑草が増えたけど
陸稲も伸びていました。根
元の方はむらさき色でき
れいでした。



鳥よけネットは、小林さん
や先生たちと力を合わせ
て、はりました。収穫が楽
しみです。

収穫 10月

のこぎり鎌を使い収穫する。のこぎり鎌を使用するので、持ち方や注意点について農業指導者に指導していただく。二人一組で作業を行うとよい。刈った稲を束にして結わき、はざがけにして乾燥させる。校内であれば、雨の当たらない中庭が望ましい。



鎌は初めてさわったので少し怖かったです。けど、教えてもらった方法で、どんどん刈りました。



ついに稲刈り！私は稲をかるのがとても楽しかったです。



5株から7株で、たばを一つ作りました。合計で百たばくらいありました。

脱穀・もみすり 11月

郷土資料館にもある足踏み脱穀機を使用する。その際ブルーシートを広く敷いておくとうい。その後、ボールとすり鉢を使用してもみすりをする。



足踏み脱穀機はリズムよく踏まなければうまく動かず難しかった



初めてもみすりをしたから、やり方がわからなかった。小林さんに教わって、米をとることができました。

調理・試食

精米した陸稲を炊いて、おにぎりをつくる。



お釜で炊いているときにけむりがたくさん出ました。炊き上がると焦げたにおいもしておいしそうでした。



炊いたとき、とてもいいにおいがした。自分でにぎったおにぎりはおいしかった。

成果

- ・ 平山陸稲を育てる体験活動や創始者である「林丈太郎」の生き方を学ぶことから、郷土への誇りと愛情を育むことができた。
- ・ 「平山陸稲」発祥の地で平山小学校の児童が、平山陸稲を受け継ぐことができた。

課題

- ・ 年度ごとの教員間の引継ぎを確実に行うこと、農業指導者との打ち合わせを定期的に行うことが必要である。
- ・ 農業指導者に任せきりにならないように、教師自身が校内の副読本やICT（校務支援システム・校内共有データ）を活用して、主体的に取り組む必要がある。

7. 資料

●平山陸稲と平山小学校

平山陸稲（おかぼ）は、明治時代に平山の地で林丈太郎によって発見された畑で育てることのできる稲のことである。

平山小学校では創立百三十周年（平成15年）を機に、平山陸稲の栽培をすることになった。当時の品田敏男校長が平山陸稲をもう一度平山で育てられないかと発案した。しかし平山陸稲を育てている農家は見つからなかった。その後JA農協青年部の小林和男さんの協力もあり、筑波の農業試験場に種もみが残っていることがわかった。そして、農業試験場から25gの種もみをもらい、はじめはバケツ稲での栽培が始まった。

平山小学校では、体験的な活動や調べる学習を通して平山陸稲について学び、自分たちの住んでいる地域のよさを感じ、郷土への誇りと愛情を育てることができるよう取り組んでいる。また、社会科の単元「地域の発展につくした人々」と、道徳「平山おかぼ」など、平山陸稲を発見した林丈太郎の生き方についても学びを深めている。

●平山おかぼと林丈太郎について

林丈太郎は明治8（1875）年5月3日、平山村に生まれた。

当時の平山村は水田に稲、畑に陸稲、桑を中心とした農村であった。地形的に見ると、南は多摩丘陵の北端部に接し、中央部に浅川が流れている。浅川の両岸には沖積地が広がり、その北側は日野台地へと続いている。沖積地には広大な水田が広がり、台地上は畑作（陸稲）が中心で、これといった産業もない純農村地帯であった。

稲は中国の長江下流域の湿原が原産であるため、水田での栽培に適している（水稻）。しかし、水を得ることが不便な所では、やむを得ず畑で栽培する陸稲を栽培することになった。陸稲は品種改良の歴史が浅いため、水稻に比べるととれる量や味が劣ることが普通であった。

明治44（1911）年、当時栽培していた陸稲の品種「凱旋」の稲穂の中に穂先が紫色で成熟の遅い株があるのを見つけた。丈太郎はそれをもとに翌年、翌々年と種をまき、収穫を重ね新品种の開発に努めた。その結果、味がよく干ばつや病気に強く、収穫量の多い、栽培しやすい品種を作り出した。

この陸稲は「丈太陸稲」（丈太郎陸稲）と呼ばれ、近隣の農家に知れわたった。その後、日野町豊田にあった東京府立農事試験場第一分場でさらに改良されて「平山」（東京平山）と命名された。この品種は、干ばつ、病虫害に強く、多収性に優れていた。

東京府の奨励品種にも採用され、次第に関東近県から日本中に広まった。特に日本海側の中国地方の砂地や乾燥地で作られた。当時の陸稲栽培に大きく貢献した丈太郎は、大日本農会や南多摩郡農会から表彰された。大正14年、大日本農会は農事改良普及規定によって、「名誉賞」をもって、その功績をたたえた。

昭和2（1927）年、52歳にて他界。墓は平山の宗印寺にある。昭和28年、宗印寺に墓碑が建立された。墓碑は日野市の史跡として文化財に指定され現在に至っている。

「林丈太郎ここに眠る 品種改良家 陸稲「平山」を創む また平山の名を全国に広めたり 墓石はいとも小なり されどその功績はいとも大なり」と丈太郎をたたえる言葉が刻まれている。

●平山節について

昭和二十年代、平山青年会（七生村青年団平山支部）の文化活動の一環として、平山独自の歌を作るようになった。青年会による作詞、杉山連一氏による作曲で出来たのが「平山節」である。詞の内容は、平山の農村風景を歌い、「平山陸稻」のことも挿入している。

昭和28年11月、林丈太郎の記念碑の除幕式が、宗印寺境内で盛大に行われた。そのとき、平山青年会による「平山節」が初めて人々の前で披露された。この状況は、民放ラジオ（文化放送）によって録音されたとのことである。

また、平山小学校の運動会では「平山節」を全校児童で踊っていた時期があった。創立百二十周年（平成5年）を機に当時の内藤康校長が、歌い継がれてきた平山節に振り付けをして子どもたちも一緒に踊ったらどうかと発案。花柳流の師匠であられた杉山年子さんが振り付けを考え、百二十周年の祝賀会で披露された。その後、運動会が近づくと児童集会で子どもたちに踊りを指導されていた。

●日野市副読本・平山小学校副読本

平山おかぼは明治時代に平山の地で林丈太郎（1875～1927）によって発見された、畑で育てることのできるイネである。平山の宗印寺には、その功績を称えた石碑がある。「林 丈太郎ここに眠る 陸稻平山を創む 平山の名全国に広まる 一八七五年に生れる 一九二七年逝く」

平山節の中にも「こがねいろづき はに はながさくよ ひらやまおかぼの ひらやまおかぼのなみをうつ」と歌われている。

平山陸稻が栽培されなくなった理由として、野木が長く米をとるときに作業しにくい・草丈が長いので強風に弱い・品種改良が進み育てやすくおいしい米が作られるようになったなどが考えられる。

●広報ひの 第977号

「丈太郎の育てたおかぼは、干ばつに強く、その上たくさんとれる品種でした。このしらせはたちまち「丈太^{じょうた}おかぼ」の名で知れわたりました。「丈太おかぼ」は当時、豊田の農事試験場で改良され「平山」と命名されました。丈太郎は^{だいにっぽんのうかい}大日本農会や南多摩郡農会から表彰され功績をたたえられました。」

●宗印寺について

曹洞宗。万福閣と号し、本尊は聖観世音菩薩である。1663（寛文3）年、一東天樹によって開創された。宗印寺の名は、開基中山照守（旗本）の戒名宗印居士に由来する。

都旧跡に指定されている五輪塔（中世の豪族 平山季重の供養塔）があり、平山季重坐像や千駄地蔵、林丈太郎墓碑などは市有形文化財や史跡に指定されている。

1873（明治6）年開校の真心学舎（のちの平山小学校）が本寺に置かれていた。また、墓所には、女子教育教育者秋間為子の墓がある。

所在地 平山6-15-11

8. 参考文献

- ・ 東京農業と試験研究100年のあゆみ
- ・ 多摩の人物史
- ・ 農業風土人物誌 東京
- ・ 日野市の文化財 日野市教育委員会 平成6年
- ・ ひのふるさと歳時記 日野市立図書館 平成4年
- ・ 日野の歴史と文化 第41号 日野史談会 平成6年
- ・ 日野の自然 縮刷版 日野の自然を守る会 昭和57年
- ・ 七生村史 七生村史編纂委員会 昭和38年
- ・ 日野市史 通史編三 近代(一) 日野市史編纂委員会 昭和62年
- ・ 平成18年度 「郷土日野」指導事例 第二集（平山陸稻と林丈太郎）
- ・ 日野市立平山小学校 副読本「ひらやま」 平成15年
- ・ 日野市立平山小学校 「すすめ 平山新鮮組」 平成17年

(4) 仲田の森に眠る蚕糸試験場

(第3学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

自然体験広場（通称「仲田の森」）は仲田小学校の校地に隣接しているため、授業で活用しやすい自然林である。旧農林省蚕糸試験場を閉鎖後 30 年あまり人の立ち入りを制限していたが平成 20 年からは、年間を通じて授業で利用することが可能になった。しかしながら、仲田の森を教科等の指導に結びつける教材研究は緒に就いたばかりである。

幸いなことに、蚕糸試験場の建物の一部はそのままの状態に残されており、蚕糸試験場に関連する資料も残っている。近年、森の活用の仕方について注目し、自然体験広場でさまざまなイベントが開かれるようになってきた。これらのことを活用することにより、子供は地域を詳しく知り、大切にしていきたいという心情を育つであろうと考える。

そこで、地域で活躍した先人の生活や工夫を知ることや、自然の大切さを感じる活動を通して、子供がこれからの生活に結び付けて考えることができるようにしたいと考え、本単元を設定した。

2. 指導計画

①単元のねらい及び評価規準

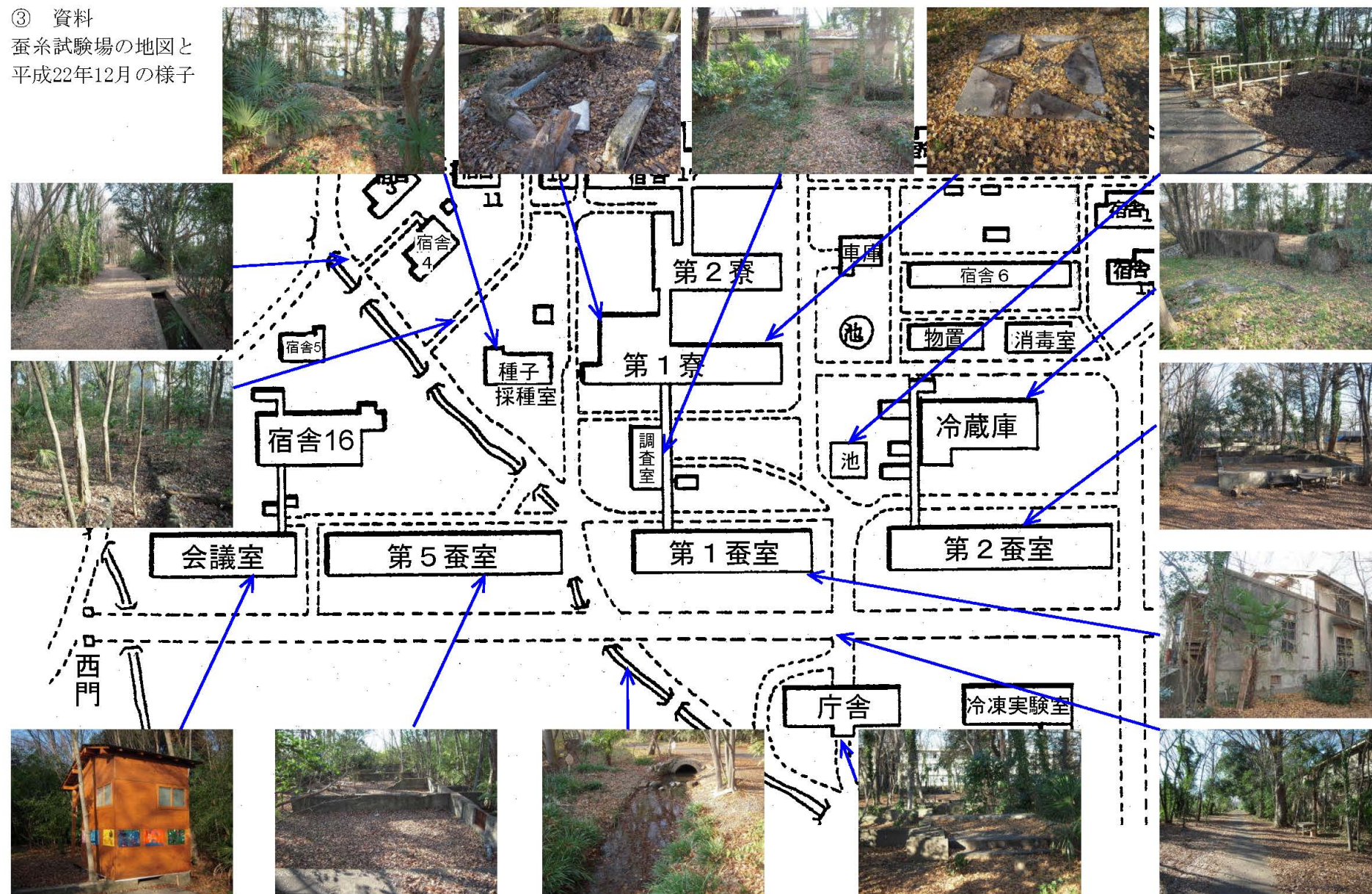
	自ら課題を設定する力	よりよく問題を解決する力	伝え合う力	自分を見つめ自己の学びを深めようとする力
ねらい	仲田の森にある生物や建物等について、疑問に思ったことをもとに課題を設定できる。	適切な方法を選りながら課題について調べたことをまとめることができる。	事実を具体的に伝えるように表現することができる。	学習したことを振り返り、学んだことや自分の考えを書くことができる。
評価規準	疑問に思ったことをもとに調べたいことを明確に書くことができる。	調べたことや観察したことを適切に記録することができる。	情報を取捨選択し、事実が具体的に伝えるように表現する。	学習したことを振り返り、学んだことや自分の考えを書くことができる。

②単元の指導計画（35 時間）

過 程	学習活動	○留意点 □評価の視点（評価方法）
つ か む 5	○仲田の森を探検する。 〔例：桑ハウスの中の見学、銀杏拾い、昆虫採集、水の中の生き物探し〕 ○仲田の森について詳しく調べることを決める。 （例） ・桑ハウスの秘密をさぐる。 ・蚕糸試験場の地図を基に建物の跡をたずねる。 ・植物の種類はどのくらいあるか。 ・仲田の森にかくれている生き物を探す。	○詳しく調べたいことを選べるように、多様な体験をさせる。 ○調べることを明確にするために、なぜそのことを選んだかについてはっきりさせる。 □詳しく調べることについて、選んだ理由とあわせて決めることができたか。（活動の記録）
と り く む 15	○課題ごとに調べる。 ・採集する ・地図や図鑑を基に調べる ・標本を作る ・写真で記録する ・詳しく知る人から教えていただく	○仲田の森で実施しているイベント等を活用する。 ○あとで記録するために、写真で記録したり、標本にしたりする。 ○分かったことについて、図書やインターネットからの情報等を基にして根拠を明らかにする。 □知りたいことが明確になっているか。（児童の記録、行動観察）
ま と め る 10	○調べたことについて、仲田の森で紹介する。 ・紹介の仕方を練習する。 ・実際に友達に紹介する。 ・紹介したり、話を聞いたりしたことについて、感想をまとめる。 ○質問や指摘されたことを基に、さらに調べる。	○紹介する時間を 5 分間程度とする。 ○前半と後半に分けて、紹介者と聞き手を交代する。 □明らかにしたことをまとめることができたか。（児童の言葉、活動の記録）
ひ ろ げ る 5	○活動したことを画用紙 1 枚にまとめ、ふりかえる。	○「詳しく調べたいと思った理由」「調べ方」「調べたこと」「分かったことや感想」を書くようにする。（作品）

③ 資料

蚕糸試験場の地図と
平成22年12月の様子



③ 第1蚕室の跡

「桑ハウス」という名称で、現在は自然体験広場で使用する用具等を保管している。



④学習の様子



5月下旬から6月上旬にかけて桑が実をつけるので、採取して食べてみた。桑の実を見つけることにより、葉の形が異なっても桑の木を見分けることができるようになった。10月にはイチョウの木から落ちてくる銀杏を拾い、果肉をむいて七輪であぶり、食べてみた。果肉のにおいの印象とは異なり、口にしてみると甘い味がしたので初めておいしいことが分かったという子供もいた。

このほかに、桑ハウスの探検や倒木に隠れて冬越しをしているスズメバチの写真(下)を紹介して仲田の森について詳しく調べてみたいことを決めた。子供が選んだテーマは、「森の中で食べられる植物はどのくらいあるか」「森の中



にある植物は何種類あるのか」「仲田の森にあった建物の様子はどうだったのか」「生き物は森の中でどのようにして隠れているのか」などである。「水の中にいる生き物について詳しく調べたい」という子供がいた。用水路の中にある生き物を探したいとのことである。多摩川は水量が多い上に流れも速いため、安全を考慮すると水の中で活動するには適している場所とはいえなかった。しかし、仲田の森を流れる用水路は適度な流量であり、水の中での活動に適している。子供の発見から理科の学習においても活用できるのではないかと感じる事ができた。

調べる活動では、図書等で得た知識を必ず自分で確かめるようにさせた。なお、毒のある植物を見分けることは難しいので、食べることで以外の方法で確かめるようにさせた。

近年、仲田の森を活用して休日にイベントを開催することが多くなった。その内容も自然体験的な活動や芸術、建築など多様である。11月に開催された「あきなかだ」において、森にある植物を煎じたお茶を振る舞うことを知り、食べられる植物がほかにもあるかどうか質問していた子供がいた。



(5) 小学3年生「社会科見学」の見どころ

(第3学年 社会・総合的な学習の時間)

1. 『日野市のようす』という単元の難しさ

3年生社会科では1学期、『学校のまわり』(12時間)に続き、『日野市のようす』(14時間)という単元を設定して学習する。まさに郷土学習そのものである。

しかし、3年生を指導する教員にとって、教材研究が難しい単元であることも間違いない。特に、日野市内での勤務が浅い教員や、久しぶりに3年生を指導する教員にとって、他地域とは異なる内容であるだけに、過去の蓄積が使えないことも大いにある。そこで、市内の教員が情報をシェアし、指導方法についてもお互いに研鑽を深めることが必要不可欠だと考える。

2. 現在の「社会科見学」の状況

3年生という発達段階では、社会事象と具体的に向き合わなければ、ほとんど何も学習できないといっても過言ではない。

学年最初の単元『学校のまわり』では、学区域を見て歩き、地図と町並みが同じであることに気づいたり、学区域のようすについて知ったり考えたりする。児童にとって、具体的な学習である。このように、児童はフィールドワークの重要性を身を持って感じ、教員も目の当たりにそれを感じるのである。

だが、次の『日野市のようす』では、そのフィールドワークが難しい。一つには(1)で述べたように、教員自身が教材についてよく知っていないという現実がある。そしてもう一つ、フィールドワークであるところの「社会科見学」に様々な制約があるからである。その制約を整理してみたい。

- ・ 年間予定の中で、実施時期が1学期でない学校もありタイムリーではない。
- ・ 1日のうちに多くをフィールドワークしなければならないことが多い。
- ・ 移動範囲を考えると、バス利用が多く、広く浅く見るという形が多い。

…以上のような状況のもと、忙しい中でしっかりした準備・指導が行き届かず、日程をこなすだけで終わってしまう社会科見学はないだろうか。

あらためて、社会科見学をどのように具体的に実施すればよいのか、みんなでいっしょに考えていきたい。

3. 副読本「わたしたちの日野」の内容

ここでは、平成23年度より使用される副読本「わたしたちの日野」の中で、日野市について、どう扱われているのかを簡単に紹介したい。

(1) 『学校のまわり』(14時間)

(2) 『日野市のようす』(14時間)

- 土地のようす(台地・低地・丘陵地)
- 交通のようす
- 田や畑のようす
- じゅうたくの多いところ

- 商店の多いところ
- 大きな工場の多いところ
- くらしをささえるしせつ（郵便局・消防署等）
- くらしをゆたかにするしせつ（図書館・市民会館等）
- 「ふるさと日野ガイド」をつくろう
- 発展「日野用水」（2時間）
- (3)『日野市の人びとの仕事調べ』
- ものをうる仕事（14時間）
- 農家の仕事（選択 14時間）
- 工場の仕事（選択 14時間）

4. 学習内容と「社会科見学」

以上のように社会科で学ぶ内容は盛りだくさんである。一方、社会科見学はわずか1日で（できても少しずつ数回にわけて）実施しなければならない。

したがって、内容の精選が重要である。すべてを網羅することも不可能だと思わなければならない。わかりやすく言えば、優先順位を決めて「何を」「どう見せる」かをはっきりさせておくことだろう。もちろん、日野市内 17 校、それぞれの立地条件や学習実態などで、その「何を」も違ってくるだろうが、ここでは市役所に一番近い日野第七小学校をモデルにして考えてみたい。

5. 「何を」

言葉で言っても理解の難しいものを優先しなければならないだろう。身体で感じることができるものもよい。

そこで、いくつか絞ってみたい。

- ・ 地形の様子（日野台地、川沿いの低地、多摩丘陵）……これは必要不可欠な見学要素
- ・ 「緑と清流のまち」（川や用水、雑木林）……日野市の最大の特徴
- ・ 梨やブルーベリー、大根、トマトなどの畑、稲田……選択内容による
- ・ 大きな工場、中小の工場が集まった工業団地……選択内容による
- ・ くらしをささえる公共施設や公共設備

なお、歴史に関する内容を考えることもできるが、社会科では『日野市のむかし』（「かつやくした人をたずねて」「むかしから受けついできたものやこと」）を4年生3学期になってから学ぶ。よって、3年生ではあまり取り上げないほうが良いかと思う。とはいえ、現代の日野が過去の日野と断ち切られてあるものではない以上、上記の内容に触れる範囲内で見学する必要性はあるだろう。（たとえば、用水を築き、守ってきた歴史を水車などに見る。）

6. 「どう見せる」

フィールドワークといえど、基本的には徒歩が何より一番ではあるが、社会科見学でそれはできない。数箇所までバスを留め置き、多少歩く程度になろう。それならば、それ

はどこか。見るだけでなく、体験できる場所は可能な限り、バスを降りたい。

バスの車窓から見学することも重要であろう。教師からの説明もあるだろうが、説明ではなく、「あれを見てごらん。何だろうね」といったはたらきかけでもって、見せても良いだろう。できたら地図とともに、児童が発見したこと・気がついたことを記入するワークシートなどを用意したい。

7. 社会科見学のモデル例（バスでの例）

4で述べたとおり、市内各校で状況は異なるが、日野第七小学校をモデルにしたコースを紹介したい。（別途地図参照）

- 1 日野市役所（レンガの建物は、日野市の施設の特徴。ここが日野市行政の中枢）
- 2 煉瓦ホール（市民会館）
- 3 防災情報センター（パラボラアンテナが目立つ）
- 4 国道脇の小さな小道（この入り口を入ると…）
- 5 横穴墓跡（市内にはこのような古墳がいくつもある）
- 6 国道20号線（台地から、低地・多摩丘陵を一望）
- 7 梨畑の広がる景色
- 8 地場野菜の無人販売所（「人気のまとです、日野のトマト」の売り文句）
- 9 梨等の畑
- 10 多摩都市モノレール（沿線住民でないと、意外に利用した経験がない）
- 11 梨畑（季節によっては袋がけしてある）
- 12 日野宿 東の地藏堂（日野駅南側に西の地藏堂があり、対になっている）
- 13 日野警察署
- 14 日野宿（古い建物を含んだ町並み、八坂神社等）
- 15 日野駅（歴史ある駅舎）
- 16 用水（道路に面しているが、半分しか蓋されていないのはなぜ？）
- 17 東光寺大根たくあん工場が見える
- 18 よそう堀森公園（実際にそこに立って、田を眺めるとよい。田が今も続く理由）
- 19 水車堀公園（昔の水車を再現してある）
- 20 ブルーベリー畑（ここ数年増えた作物）
- 21 七ツ塚古墳（こんもりした古墳が見える）
- 22 日野市立病院
- 23 大きな工場（コニカミノルタ）
- 24 交差点の町名「さくら町」（コニカミノルタの歴史）
- 25 首都大学東京
- 26 旭が丘中央公園（ここには巽聖歌の歌碑があり、縁を話す）
- 27 大きな工場（帝人中央研究所）
- 28 大きな工場（FANUC）
- 29 平山工業会の看板（中小の工場の一覧、大きな工場だけではない）
- 30 豊田陸橋からの景観（台地から、低地・多摩丘陵を一望）
- 31 J R 豊田電車区（できたときには、日本一の大きさ）

- 32 豊田用水、浅川の取水堰
- 33 京王線を超える陸橋から、平山の宗印寺が見える
- 34 多摩丘陵に広げられた住宅地
- 35 栗や柿の果樹園
- 36 古民家
- 37 東京都立多摩動物公園
- 38 教育センター（できたら屋上からの景観を見せたい）
- 39 百草団地の商店街（立地ともあわせて考えさせたい）
- 40 百草ファームとジェラート（牛舎を案内してくれる）
- 41 京王電鉄高幡電車区
- 42 高幡不動尊（車窓左の山門等だけでなく、右の門前町も見せたい）
- 43 京王線と都道の立体交差を工事中（今も進む都市計画）
- 44 一番橋（浅川に橋を架けた人々の思い）
- 45 善生寺の大仏（仏像は歴史が浅い）

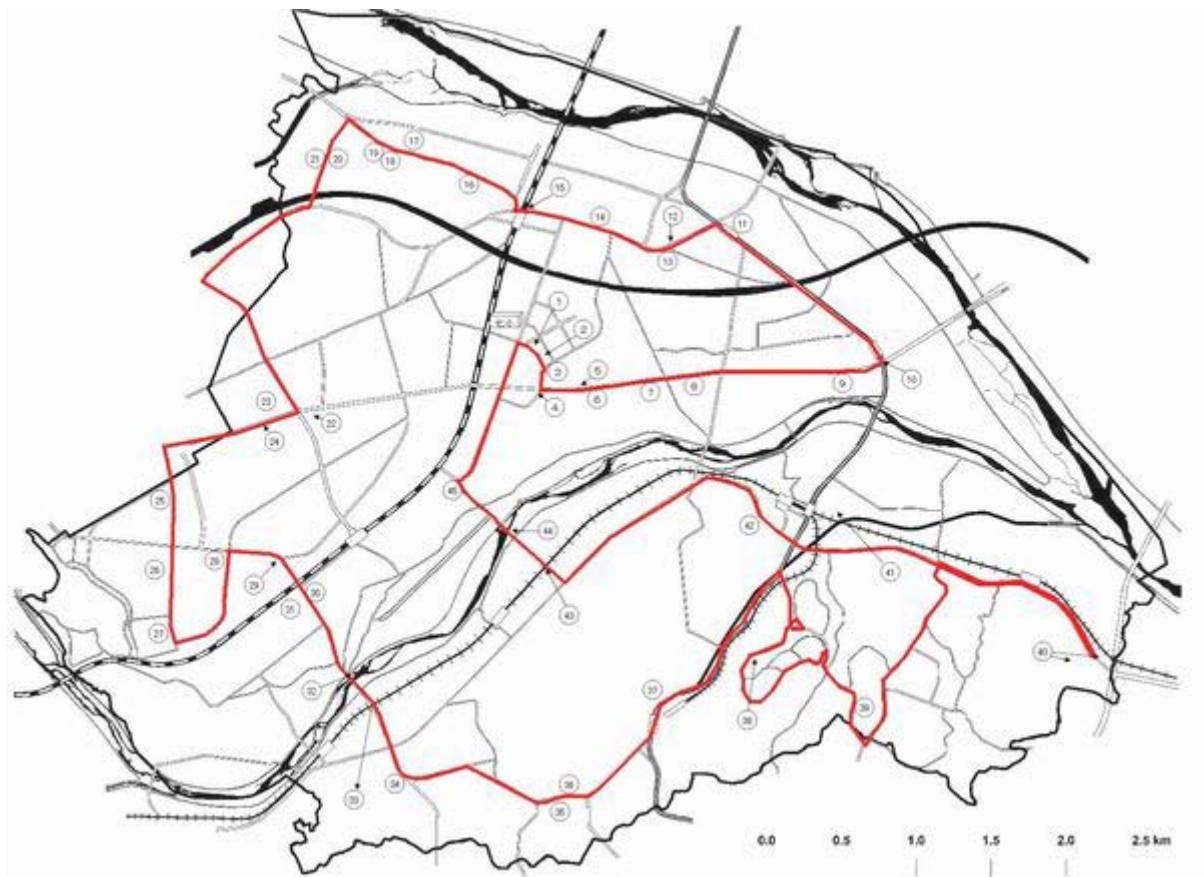
8. 社会科見学のモデル例（徒歩の例）

7 同様、日野第七小学校をモデルにしたコースを紹介したい。実際には遠足で実施したコースである。

- 1 学校出発
- 2 スーパーおおた
- 3 日野市役所（地図 1）
- 4 煉瓦ホール（地図 2）
- 5 日野中央公園（地図 3）
- 6 防災情報センター
- 7 神明郵便局
- 8 国道 20 号線（日野バイパス）
- 9 多摩丘陵が見える景色
- 10 国道脇の雑木林（地図 4）
- 11 川辺堀之内の農村風景
- 12 ゴルフ練習場周辺の雑木林
- 13 豊田用水
- 14 用水途中の水車跡（用水が二股に分離している）
- 15 浅川と一番橋（地図 44）
- 16 七生中の自噴水
- 17 京王線の立体交差
- 18 南平四丁目交差点から上る丘陵住宅地
- 19 環境省水鳥救護センター（日野市の野鳥を紹介してもらえる）
- 20 同センターから南平丘陵公園裏に続く歩道（丘陵地から日野市全域が見渡せ、市役所を手がかりに学区域を望むことができる）
- 21 南平丘陵公園（散策道は多摩動物公園に面しており、オランウータン等が見える）

- 22 公園内の吊り橋
- 23 南平駅周辺の商店街
- 24 浅川の土手
- 25 (一番橋を経て) 善生寺の大仏 (地図 45)
- 26 黒川清流公園
- 27 神明野鳥の森公園
- 28 学校到着

このほかに、平山城址公園、仲田の森自然体験広場、落川遺跡公園など、遠足やその他の機会に訪れておくのも良い。



日野市社会科見学地図

（６） 新しい街づくり～多摩平の森～

「昔の生活を調べよう～多摩平の森の移り変わり～」

（第４学年 総合的な学習の時間）

１．教材化の意図

小学４年生にとって、自分の通っている学校はなぜ出来たのか、昔の学校はどのようなものだったのか、学校の歴史について疑問をもち、それについて調べることでできる学年である。昨年、日野第五小学校が創立５０周年を迎え、学校の歴史について関心をもった児童が多いこと、また、周年誌の中に昔の日野第五小学校は１０００人を超えていたという事実を知り、児童数の変容などに興味をもった児童がいたことから、五小の歴史のルーツでもあり、学区内に存在した「多摩平団地」を教材化することにした。

教材化に関しては、単に歴史を調べてまとめるのではなく、当時の人はどのような思いをもって生活していたのか、多摩平団地ができた時代はどういうものだったのかまでを調べ、考えることができるようにしたいと考えた。また、多摩平団地は完成当時の最先端の設備が整えられ入居のための抽選は宝くじに当たるより難しいと言われていた。それほど人気があったという事実にも迫っていった。そのために、学校にある周年記念誌や昔の様子を記録した写真、上空から学区の様子を写した航空写真などを用意し、視覚的に昔の様子がわかるようにした。また、写真資料や当時の新聞記事を用意することで、昔の暮らしを視覚的に理解し当時の人の想いや当時の暮らしの工夫や努力について児童が考えられるようにした。

２．指導計画

（１）単元のねらい

- ・多摩平団地の変化を調べることで人々の生活の変化や願いを考えることができる。
- ・昔の道具について調べることを通して、昔の生活について理解し、様々な工夫をしてよりよい生活をしようとしていた人々の努力を理解することができる。
- ・多摩平団地を調べることで郷土「日野」に対する興味関心を高め、愛着を育てる。

（２）単元の指導計画（全９時間）

	ねらい	主な学習活動と内容	教材・資料等
気 付 く	①学校の昔様子や学校の周りの様子の写真を見て、昔の様子について関心をもつことができる。	日野第五小学校の昔の写真、学校の周りの様子や児童数の変化のグラフを見て、疑問に思ったことや分かったこと、学校の昔について知っていることを話し合う。 ○児童数の変化のグラフ ・五小だけ増えている。 ・他の小学校は減っている。 ○航空写真（昔と現在） ・五小のまわりに畑がたくさんある。 ・建物が少ない。	五小の昔の写真 児童数の変化のグラフ 航空写真（昔・現在） 多摩平団地の写真

見 通 す	②調べてみたいこ とを話し合い、学 習問題と学習計画 を立てることがで きる。	調べてみたいことや疑問をまとめ、学習問題 を立て、学習計画をたてる。 ・多摩平団地は何年にできたのだろうか。 ・五小と団地はどちらが先にできたのだから か。 ・多摩平団地にはどれくらいの人が住んでい たのだろうか。 ・どうして団地がなくなったのだろうか。 ・昔の人はどのような生活をしていたのだから うか。 多摩平団地ができた時のわたしたちのくら しはどのようなものなのだろうか	五小の昔の写真 児童数の変化のグラフ 航空写真（昔・現在） 多摩平団地の写真 学習計画表
	③多摩平団地の写 真を見て、当時の 生活の様子を調べ、まとめること ができる。	多摩平団地の写真や間取り図を見て、気づい たことを発表する。 ・二階建ての家もあるのは知らなかった。 ・お風呂が木で出来ていてびっくりした。 ・今の家と照明がちがうのに気付いた。	多摩平団地の写真 多摩平団地の間取り
	④団地が完成した 時代の生活の様子 について調べること ができる。	多摩平団地ができた時の生活について調べ、 今の生活の様子と比べる。 ・今は洗濯機を使うけど、昔は洗濯板で洗濯 をしていた。 ・冷蔵庫は電気ではなく氷を使っていた。	多摩平団地の写真
	⑤⑥団地が完成し た当時の生活とそ れまでの生活の様 子について調べる ことができる。	多摩平団地の生活の様子とそれまでの生活の 様子を比較し、話し合う。 ・団地は流しがステンレスなのに、ジントギ の流しを使っている家があった。 ・お風呂がないのが普通だったと知って驚い た。 ・団地ができて駅前にお店がたくさんできた。	多摩平団地の様子の写真 昭和30年代の生活の様 子（台所や茶の間を中心 に） 当時の新聞記事 団地の周りの様子
追 及 す る	⑥⑦昔の道具につ いて調べ、カード にまとめることが できる。	自分が調べてみたい道具について調べ、名前 や使い方などをカードにまとめる。 ・ジントギの流し ・団地のお風呂 ・かまど ・洗濯板	調査カード 昔の道具の写真 昔の道具

表現する	⑧昔の道具について調べたことを発表することができる。	自分が調べた道具の使い方や特徴・工夫などについて発表する。	調査カード
ふりかえる	⑨これまでの学習をふりかえることができる。	調べ学習をふりかえり、取り組んできた感想を文章にまとめる。 ・多摩平団地は古くて狭いと思っていたけどできた時はとても人気だったことをしって驚いた。 ・昔の人は、工夫をしながら生活をしていたことがわかった。	調査カード

3. 多摩平団地について

多摩平団地は、東京の人口増加に伴い、昭和30年に日本住宅公団法が公布され、第一次期事業として金ケ作、豊田、生田、北所沢の4ヶ所が計画されそのうちの1ヶ所に選ばれた大型の団地である。都内では、先頭を切って日野町豊田で40万2000坪の開発が行われることになった。しかし、建設当時は地元の反対もあり、日野二中の校庭で行われた地鎮祭では反対運動も起きた。その時の反対運動の記録が日野市史に残っていた。

『畑地から衛星都市の大住宅に生まれ変わる日野町豊田の40万坪は建設大臣の事業認可も降りて26日午後2時から日野二中の校庭で日本住宅公団の豊田住宅建設地鎮祭が執り行われたが、農地をつぶすことに反対する一部農民はノボリ旗を立てて地鎮祭会場付近に座り込み、公団総裁などに反対決議文を提出する一幕もあった。』しかし、区画整理事業は、このような反対運動を伴いながらも着実に進行し、32年12月末には、第一次工事分の住宅建設が業者に発注された。33年10月15日に第一陣（696戸）の入居が開始された。そして翌34年7月には、第二次入居（556戸）、その後第三次、第四次、第五次と入居が進み35年8月には第六次576戸の入居が行われ、計2792戸の入居が完了することになったのである。なおこの後36年末には、豊田駅前第一（27戸）、第二（33戸）の公団住宅が施工し、37年1月に入居が完了した。この頃になると、商店もできはじめ、駅前には高島屋ストアや伊勢丹もあった。昭和35年（1960年）には町立病院も建設が開始され、昭和36年（1961年）には内科、外科、産婦人科を含む5診療科で開業した。

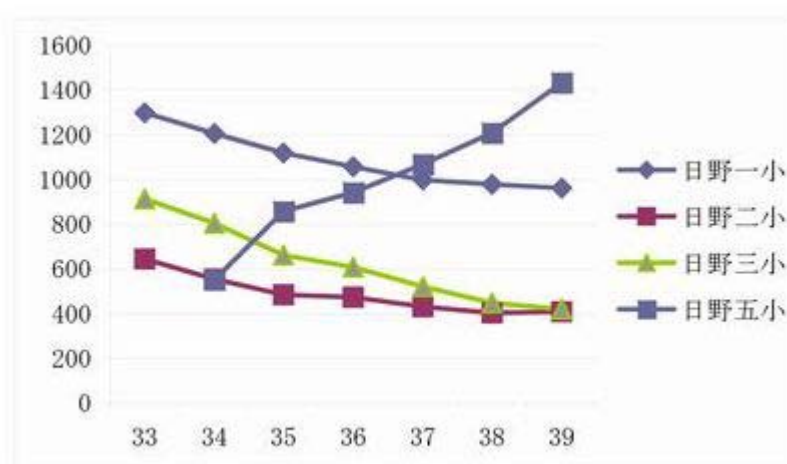
多摩平団地の完成によって日野町の人口は爆発的に増え、昭和38年（1963年）11月3日、都下12番目の市として日野市が誕生した。当時の人口の増え方は、まさに爆発的と言えるもので、日野市史にも以下のように記録されていた。

『昭和30～50年の、いわゆる経済の高度成長期に日野市域は、多摩の他市とともに爆発的に人口が急増した。昭和30年（1955年）に2万7305人だった人口は50年には12万6847人で5倍近くになっている。同時期の全国の人口増加率は1.2倍、東京都は1.4倍に

すぎず、多摩の市部の人口も3倍であるところから日野市の約5倍はいかに大きな人口増加かわかる。この爆発的な人口急増の背景には団地の建設があった。』

平成22年現在、多摩平団地は解体され、新しく「多摩平の森」として生まれ変わった。多摩平団地に住んでいた児童は今の日野第五小にはいないが、新しく出来た多摩平の森に住んでいる児童は多数いる。また、多摩平団地は完全に取り壊された訳ではなく、一部がUR都市機構の「ルネッサンス計画2『住棟ルネッサンス事業』」として3つの民間事業者に貸し出され、(リノベーション) 再生・改修工事を経て新しい形の賃貸住宅として生まれ変わる予定である。この生まれ変わった多摩平団地も従来の賃貸住宅という形ではなく、シェア型賃貸住宅やコミュニティーハウスという新しい形のライフスタイルを提供した住宅に生まれ変わり完成してから50年が経過した現在もその形を残しながら、最新の住居として変化をとげたのである。多摩平団地はその規模や歴史、生活の変化、そして日野五小と共に生まれたということからも郷土を考え、郷土を思うのにつけての教材であり、多くの児童に多摩平の団地の生活について学んでほしいと感じた。

〈資料〉



古くからある一小、二小、三小は学校周辺の開発が終わり、児童数は減少傾向にあることがわかる。五小は団地に隣接しており、団地に入居した児童で児童数が大幅に増えた。平成22年現在の児童数が413人であることを知っている子は1400人という児童の数にとっても驚いていた。



1947年の五小周辺の航空写真

日野自動車の工場が目立つが、それ以外はすべて畑などになっており、五小や多摩平団地はおろか建物の姿はほとんど見ることはできない。

この写真と、今現在の五小周辺の航空写真を比較して、団地が出来たこと、団地が巨大であることをつかませた。



団地としては初の規格化されたステンレスの流し。それまでは「じんとぎ」の流しを利用しており、当時としては憧れのキッチンであった。また、換気扇は住人の負担で取り付けることになっていた。



多摩平団地のお風呂、それまではお風呂が備え付けの住宅は少なく、銭湯に通っていた。自宅にお風呂があることは当時とても注目され、入居倍率が上がる要因とされている。

多摩平団地の学習を实践しての成果と課題

成果

この授業を終えての成果は、学校の歴史や児童数の変化から多摩平団地についての学習に入ったので「多摩平団地にそんなに人が入れたのだろうか?」「多摩平団地がどんなものだったのか知らなかったので多摩平団地について早く調べてみたい」など児童の関心を高めることができた。また、学習を進めていく上で「多摩平団地について知ったことを家の人やおばあちゃんに話してあげたいと思います。(おばあちゃんが団地に住んでいたのです。)」や「6年生を送る会で五小の児童数の変化についての問題を出したいです。」と感想を書く児童がいて、地域についての愛着をもつことができたと感じた。

課題

学習の過程で多摩平団地の生活の資料を作成したが、写真やグラフの資料のみでの学習になってしまった。可能であれば、多摩平団地を移築してあるUR都市再生機構の都市住宅技術研究所へ校外学習をして、実物に触れる学習を展開できればと感じた。限られた資料の中で、児童の思考をいかに引き出すかが一番の課題になった。

引用・参考文献

日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会「平成18年度『郷土日野』指導事例 第2集」

日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会「平成21年度『郷土日野』指導事例 第5集」

日野市史通史編4近代(二)現代 平成10年

日野市立日野第五小学校「開校40周年記念誌」 平成12年

協力

独立行政法人都市再生機構 都市住宅技術研究所

日野市郷土資料館

(7) 郷土教育実践の継承と拡大

地域の自然を知ろう～多摩平の森の自然・魅力～

(第4学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

本校では昨年度から「多摩平の森」を扱った授業を行っており、身近な自然・土地の歴史に目を向け、郷土のよさを学習することができた。「多摩平の森」は、日野第六小学校の近くにある約1haほどの緑地である。公園ではなく団地の中にある庭であり、管理の費用が住民の共益費から賄われるだけでなく、その保全や将来についての話し合いも住民が参加して検討を重ねている。森には木道やベンチが整備され、住民の憩いの場となっている。

一般的に、担任する学年が変わると昨年度の実践が引き継がれなかったり、使用した教材が生かされなかったりすることがある。特に郷土教育においては、教科書など一般的な教材を頼りに授業することが難しく、引継ぎをする重要性が高い。そこで、本年度も引き続き学習を継承したいと考えた。

児童は普段、身近な自然に目を向けたり調べたりする機会が少なく、自然のものへの愛着も薄いように感じる。本学習を通して、自然から四季を感じ取ったり、様々な植物に興味を持ったりする感覚を養いたい。また、郷土の財産である「多摩平の森」について深く学ぶことで、人々の思いや願いに気づくとともに、郷土の自然に対する愛着も育てていきたい。

2. 指導計画

【扱う単元】第4学年 総合的な学習の時間「地域の自然を知ろう 多摩平の森」(全21時間)

【関連単元】第4学年 社会科 「くらしと土地の様子」

第4学年 理科 「生き物を調べよう」

第4学年 道徳 「自然愛」「生命尊重」

(1)単元のねらい

地域の身近な自然(多摩平の森)や歴史について自ら課題を見つけ、自然の様子や人の関わりについて自分で調べる活動を行うことで、自然を大切にしていこうとする心を育む。

(2)単元の指導計画(全21時間)

課題を把握する	主な学習活動	○支援 ◇評価
	1. 校章から身近な木について関心を高める。 (1時間) ・校章のデザインを想起して描く。 ・実際のものとは比べて修正する。 ・校章の由来について感じたことを話し合う。	○「校章」のデザインをもとに、いつ、だれがどのような思いで表現したのか情報を提供する。「校歌」にも触れる。 ◇デザインに込められた願いに触れて、メタセコイアと学校との関係について書けたか。

	2. 自然体験活動をする。〔1〕（2時間） ・メタセコイヤを観察する。 ・六小には、どのような植物があり、どんな様子が観察する。 ・調べてみたいテーマを見つけ、視点をしばって観察・調査する。	○目立つ樹木や草花に着目させる。 ○児童が自分で観察の視点をしばって活動できるよう声かけをする。 ◇自分が設定したテーマに基づいて調査活動を行うことができたか。
	3. 地図や航空写真から、身近な自然について知る。（1時間） ・航空写真を見て、地域の土地の様子を読み取る。 ・多摩平の森の名称と場所を知る。	○地図を正しく読み、緑の多い地域に着目できるように視点を提示する。 ◇身近な自然に着目して、地図や航空写真を読み取ることができたか。
課題を明確にする	4. 自然体験活動をする。〔2〕（3時間） ・紙芝居を聞き、ストーン牧師について知る。 ・多摩平の森の自然に触れる。 ・多摩平の森に触れた感想や、地域の自然について知りたいことを書く。	○交通マナーを守って安全に行動する。 ○ストーン牧師が多摩平の森を愛した点を中心に扱う。 ○多摩平の森の自治会の方に案内していただき、森についての説明を受ける。 ◇自然について関心をもち、調べたいことが見つけられたか。
	5. 自然体験活動をふまえ、疑問や知りたいことを整理し、課題を決める。（1時間） ・調べてみたいことを出し合い、課題を決める。 ・調べてみたい内容ごとにグループを作る。 ・掲示用カードに、グループ名・課題名・メンバーを書く。	○あらかじめ同じ内容の課題ごとにおおまかにグループ分けしておくが、できるだけ児童同士で決めさせるようにする。 ○意識付けのためカードは掲示しておく。 ◇自然体験活動をふまえ、疑問や知りたいことを整理し、課題を決められたか。
	6. 課題解決の方法を考える。（1時間） ・グループごとに課題について調べる方法を話し合い、調査計画カードを作成する。	○調査計画カードを書き終えたグループには、調べる方法について、助言する。 ◇調査計画カードを作り終えられたか。
追究する	7. 調べ学習をする。（5時間） ・前時までに自分で決めた課題を解決するのに、必要な情報を収集する。 ・「多摩平の森」のよい点を見つける。 ・樹木や草花等について図鑑で調べる。 ・多摩平団地の歴史について調べる。 ・木の太さや森の広さを測る。 ・種類ごとに木の本数を数える。 ・地域の方にインタビューする。	○意欲的に調べられるように、調べ方について助言する。 ○調査に必要な物は、できるだけ自分たちで準備しておくよう声をかける。 ○校外に出て調査をする際は、交通マナーを守って安全に気をつける。 ◇調べたい事柄の情報を集めることができたか。

深める	8. 取材したことをまとめる。(4時間) ・どのような形にまとめるのか、グループで話し合っ て決める。 ・役割分担をする。 ・まとめる中で、分からないことや新たな疑問につ いては調べを進め、協力して完成させる。	○まとめ方について例を出し、グループごと に助言する。 [まとめ方の例] ・壁新聞 ・ガイドブック ・紙芝居 ・絵本 ・パワーポイント
	9. 地域の自然についての発表会を行う。(2時間) ・発表練習をする。 ・地域の人に、多摩平の森について調べてまとめた ことを発表する。工夫した点を述べる。 ・感想を伝え合う。 [対象] 保護者	○発表方法について提示する。 ○地域の方に伝えたいことが伝わるよう工 夫させる。 ○友達の発表のどのような点が良いか見 つけながら聞くことができるよう、聞く観点を 示したシートを活用する。 ◇地域の自然について伝えたいことを分か りやすく発表することができたか。
まとめる	10. 学習を振り返り、感想交流する。(1時間) ・これまでの学習の感想を書く。 ・感想を伝え合う。	○グループで感想交流し、まとめる。 ◇身近な自然や歴史に対する自分の考えを 深めることができたか。

〈資料〉

①【「多摩平の森」と「ユリノキ」物語】(多摩平の森自治会長 笹原 武志氏 作成)

昭和33年、「多摩平団地」が誕生し、50年経過して団地は建て替えられ、現在の「多摩平の森」として生まれ変わった。「多摩平の森」という名前は皆で考えた「森の愛称」であり、それがそのまま団地の名前として使用されている。多摩平の森は公園ではないため、住民が協力して草取りなどの管理をしている。管理費はすべて住民が支払う共益費から賄われている。

建て替え事業を始める際に、多摩平自治会、日野市、都市再生機構東日本支社（公団）の三者による『建て替え三者勉強会』が立ち上げられ、現在も行われている。

多摩平の森の歴史

団地を建て替えるとき、埋蔵物文化財遺跡調査をしたところ、縄文時代の住居跡地が発見され、縄文時代からこの土地には人が住んでおり、子どもたちが遊んでいたことがわかった。遺跡の名前は、多摩平団地の下に昔「山王神社」があったことから「山王上遺跡」と命名された。その後、江戸時代までは北を甲州街道が走っていたものの、日野宿を出たら日野台は荒涼とした台地でしかなく、鷹狩りが行われ、追いはぎが出るような土地だった。

明治に入ると多摩平は八王子絹織物を支える桑畑になり、絹糸は横浜から船に乗ってアメリカ、ヨーロッパに運ばれた。大正時代に入ると、宮内庁の御用林となった。そのときに植えられた木に、モミの木やユリノキがある。戦後（昭和20年）、御用林は国有地になり、昭和22年「林野庁試験場」と名を変えた。昭和23年カナダ教会の所有になり、この教会で農村伝道を行ったのがストーン牧師である。昭和30年に本住宅公団がこの地を取得し、多摩平団地を作った。

多摩平の森のユリノキ

団地内のけやき通り集会所前にある「ユリノキ」は日本で3番目に太い木である。「ユリノキ」はアメリカ北部産の樹木であるが、宮内省の御用林のときに、御用邸の並木の実験木として植えられたものと考えられている。北米産のユリノキは日本の土地にもなじみ、すくすくと生育し、その後、種が落ちて周辺にユリノキが分布した。現在でも多摩平の森の敷地内には多くのユリノキがある。同じころ植えられたユリノキが新宿御苑、東大小石川植物園に現存している。

ユリノキの花は葉の上に咲くため、下からはよく見えないが、花はチューリップの花とよく似ている。ユリノキの葉は、祭りのときに着る「裃纏」（はんでん）に似ているため、ユリノキは「裃纏木」とも呼ばれている。

②多摩平の森のユリノキ（けやき集会所前）



子どもが両手を広げて、5～6人くらいで一周できる太さ



③フィールドワークの様子



学校から10分ほど歩くと、多摩平の森に到着する。
けやき集会所の前に立つユリノキの前で、笹原自治会長子どもたちを迎えてくださった。手には、子どもの顔がかかるほど大きなユリノキの葉がありました。

木道を歩いて、森を案内していただきました。

「大切な植物や芝生が痛まないように、木道が作られているのです。」

何も手を加えずどんな植物が育つのか実験している区画や、野草園、団地に降る雨水を利用した池も見せていただきました。



カツラの木の葉は、しょうゆのいいにおいがすると教えてもらい、興味津々で集まる子どもたち。

「なんだか、甘いいにおいがする。」

森にある木の種類を調べたり、本数を数えたりしていました。



森のいたるところに案内板があります。

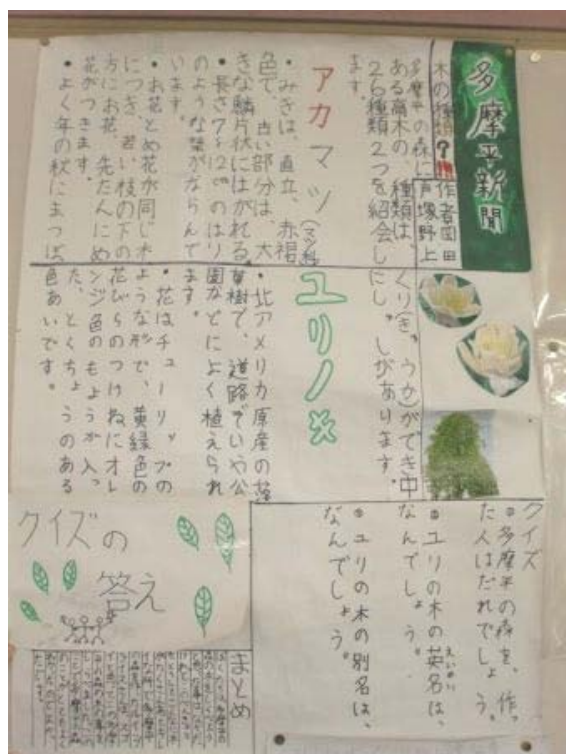
森の歴史や自然、森に集まる野鳥について紹介しているものもありました。

多摩平の森は「ストーンの森」と「遊びの森」に分かれていて、それぞれ植えられている木に特徴がありました。



④まとめ

図書館と連携して図鑑や、多摩平の森の歴史に関するパンフレットなどを貸し出してもらい、調べ学習に活用した。本で調べたことや実際に見たことをまとめ、グループでパンフレットや壁新聞を作成した。学習の最後に行った感想では、身近にこんな自然があったことに驚いたり、存在は知っていたけれどあらためてそのよさに気づいたりする児童が多かった。



⑤実践の継承に対する成果と課題

成果

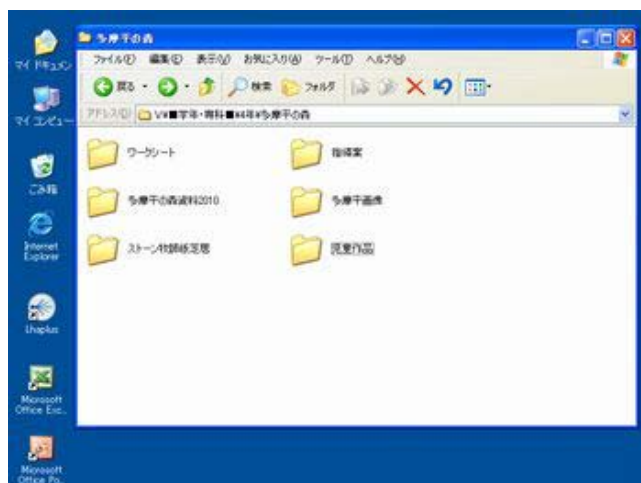
1、多摩平の森自治会との連携

総合的な学習の時間の授業作りに、地域の方の協力は欠かせない。しかし、アポイントをとったり、趣旨を説明したり、新しい人脈を開拓していくのはたやすいことではない。その点、今回は昨年度の実践を生かし、多摩平の森自治会長笹原武志氏と連携することができた。また、笹原氏が実践のねらいや学習の流れなど把握していたため、担任との打ち合わせもスムーズに行うことができた。今年度は学校に笹原会長をお迎えし、ストーン牧師の紙芝居や森の歴史の話をしていただくことができた。

2、指導計画・教材の引継ぎと写真の保存

学校内の校内共有ファイルに、使用した郷土資料やワークシート・単元計画などがデータとして保存されており、全クラスの担任が単元計画や活動内容を把握することができた。

また、児童が活動する様子や作品などが写真で保存されており、学習の見通しを持って指導することができた。資料の検索にかかる時間も大幅に削減された。



課題

これからも本校での多摩平の森の学習が引き継がれていくよう、誰が見てもすぐにわかる指導案を作成する必要がある。この地域に始めて赴任した先生など、一から教材研究を始める際にも、スムーズに指導できるような詳しい指導案を保存していく。今年度は、保存されていた指導案や資料のデータが充実していたが、その中でもパソコンのデータで残すことのできない資料や冊子の保存について課題が残った。保存場所を明記したり、写真にとって保存したりする必要があると感じた。

多摩平の森の学習を進める際、森が整備された歴史や、住民の方の思いは切り離して考えることができない。今年度は児童から挙げた課題が自然に目を向けたものに偏っていたため、もっと住民のくらしや森の歴史についても探求することで、よりいっそう郷土教育が深まったのではないかと考えている。また、他学年・他教科との関連づけについても可能性を探っていきたい。郷土の財産である多摩平の森を生かして、様々な授業が展開できるのではないだろうか。

引用・参考文献

日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会「平成21年度『郷土日野』指導事例 第5集」2010年
多摩平・くらしを提案する会「多摩平の森 第1期入居から第2期入居までのあゆみ」2005年
住宅・都市整備公団東京支社改善業務部「街と時と人を緑で結ぶ『緑の継承と育成』その考え方と取り組み」1999年

多摩平・建て替え三者勉強会「建て替え三者勉強会・第100回記念 多摩平団地での取り組み」2007年

(8) 旭が丘の雑木林を活用した授業実践
「雑木林に親しもう～3年生に炭のことを伝えよう」
(第4学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

かつて、西平山・旭が丘地区の浅川河岸段丘に沿って「雑木林」が広がっていた。この地域は周辺の村々の入会地であり、「秣場」と呼ばれる、馬や牛の飼料、薪、肥料をとる葉や草等を集める場であった。このため、この場所は各村々の共有地であった。昭和52年、日野市で18番目の小学校として開校した「旭が丘小学校」の校地にはこの「雑木林」がそのまま残され、様々な場面を通し教育活動の場として利用されてきた。また、地域にとっても大切な自然と触れ合う場であり、学校と地域が一体となって「雑木林」を活用していくことは、環境問題を考える上でも益々重要になっていくものと考えられる。

もともと「雑木林」は周辺の村々の生活を支える場であり、かつては「雑木林」の活用と自然保護は一体のものであった。肥料や燃料を確保することは、そのまま「雑木林」を活性化することであり、植物を育ちやすくするためにも、萌芽更新や枝うち、下草刈り等が必要だったわけである。しかし、1960年代以降エネルギーが石油へと移行すると、「雑木林」はその役割を失い人手が入ることなく放置され、宅地開発が進行する中で荒果て、その自然環境が破壊されることになってしまった。

この「雑木林」の学校教育への導入は、「雑木林」自体の新たな活用であるばかりではなく、これまでの郷土先人が自然を大切にしていた生活をしてきたことを理解させ、これからの環境問題を考える契機となると考えた。本単元では、この地域でも広く行われてきた「炭焼き」を理解させ、炭の活用のされ方を考えさせるなかで、環境問題への関心を高めさせることが本単元教材化の意図である。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ◎ 雑木林の手入れや炭作りを通して昔の人の知恵を学ぶ。
- ◎ 雑木林や炭について学んだことを話し合いを通して深め、3年生に出前授業を行う。

(2) 単元の評価内容 (全24時間)

(※育てたい力から)

学習方法に関すること (自分の課題を追究し続ける力)	・友達と協力して雑木林の手入れや炭作りを行うことができる。 ・ゲストティーチャーの話を出前授業の内容に生かしていくことができる。
自分自身に関すること (自分の考えを自分から表現する力)	・雑木林の手入れや炭作りを通して昔の人の知恵を学び、今の自分たちの生活をふり返る。 ・炭のことを3年生に分かりやすく教えることができる。 ・活動のふり返りを行い、その中で自分の良かったところ、友達の良かったところを見つけ評価することができる。
他者や社会とのかかわりに関すること (異なる意見を聞き、受け入れる力) (人の意見を聞き、協力してグループでまとめる力)	・どんなことを3年生に伝えたいのかアイデアを話し合いの中で出すことができる。 ・友達のアイデアに対して自分の考えを伝え、出前授業の内容を深めていくことができる。

3. 単元について

4 年生はあさひタイム（総合的な学習の時間）でこれまで環境について考えてきた。1 学期は「身近にできるエコ活動」について学習し、2 学期は「食の調査隊」と題して、食を通しての環境学習を行ってきた。そして、3 学期は、雑木林を利用して炭作りを行い、昔の人の知恵を学び、環境について考えていきたい。また、そこで学ぶことは3 年生が社会科の単元「古い道具と昔の暮らし」で学習することとも重なっているので、自分たちで作った炭を3 年生にプレゼントするとともに出前授業を行うことを計画した。3 年生に炭のことをわかりやすく伝えるという目的を設定することによって児童により主体的に炭や雑木林のことを調べていく意欲をもたせたい。また、3 年生に対して先生役として出前授業をすることによって達成感を味わい、自信をもつとともに学ぶことの意味と楽しさを気付かせていきたい。

4. 教材化の視点と手だて

① 地域の自然や人とのかかわりを大切にした学習活動の工夫

- ・雑木林を手入れすることで、自然に親しむ態度を養う。
- ・炭作りを行うことで、雑木林を生活の中に生かす方法について学ばせる。
- ・3 年生に教えるという目標をもたせることで、最後まで探究し続ける態度を養う。
- ・自分よりも年下の子に伝わるように発表の内容や方法を工夫させる。

② 気づきを大切にし、探究的な学習を取り入れた学習指導の工夫

- ・炭についてより深く調べてみたいという気持ちをもたせるためにゲストティーチャーからお話を聞いたり、手入れや炭作りを体験したりさせる。
- ・話し合いをグループの中で深めさせるために3 年生に調べたことを伝えるということを常に意識させる。

③ 他教科との関連性を考えた指導計画の工夫

社会科

- ・「暮らしのうつりかわり」の単元と関連させ、昔と今の生活の違いや、昔の人の知恵や工夫を考えさせる。
- ・「ごみの処理と利用」と関連させ、昔の人の環境を大切にしたい暮らしを学ぶ。

国語科

- ・（話す・聞く）「話し合って決めよう」の、合意点を見つけようとして発言し、話し合いによって物事を決める楽しさを知る学習と関連させる。

5. 指導計画

	※ 時	主な学習活動	●指導上の留意点・支援 ○評価【内容】（方法）
を も つ 課 題 意 識	①1	『3 年生に「炭」の出前授業をしよう』の計画を知る。 炭について知ろう。	●今後の学習の見通しをもてるようにする。
集 情 報 の 収	② 2 3	雑木林の手入れや炭づくりに ついて、ゲストティーチャーに 教えてもらう。	●第2 次で、詳しく調べてみたいことを考えながら、お話を聞くようにする。
析 ・ 思 考 整 理 ・ 分	③ 4	ゲストティーチャーから聞いたことを整理する。	●似ている情報ごとにまとめて書くように助言する。

ま と め・表 現	④ 5 6 7 8 9	聞いたお話をもとに、炭用と薪 用に適した枝を集める。 炭をつくる。 つくった炭で七輪体験をする。	○友だちと協力して、雑木林の手入れや炭づくりを行うことが できる。【学習方法】(行動観察) ○雑木林の手入れや炭作りを通して、昔の人の知恵を学び、今 の生活をふりかえることができる。 【自分自身】(ワークシート) ●安全面に配慮する。
課題意 識をも つ	⑤ 10 11 本 時	探究課題を決める。 3年生に炭のことを伝えよう。 課題別にグループ分けをする。 出前授業で発表する内容を決 める。	○3年生に伝えたいことのアイディアを出すことができる。 【他者や社会】(発言) ●「3年生に昔の人の工夫や努力を伝える」というねらいにそ った発表内容を考えさせる。 ●教師側で、どのような内容について調べれば、探究活動が円 滑に進むかを想定しておき、児童がその内容を選択するよう にする。
情報の 収集	⑥ 12 13 14 15 16	課題別グループごとに探究活 動を行う。(人に尋ねる、本や インターネットで調べる、体験 するなど)	○友だちのアイディアに対して自分の考えを伝え、出前授業の内 容を深めていくことができる。【他者や社会】(発言) ●体験する場合は安全面に配慮する。
整理・ 分析・ 思考	⑦ 17 18 19 20	中間発表会をして、意見交換を する。 グループごとに改善する。	○自分の考えを伝え、自分と異なる意見も聞き入れることがで きる。【他者や社会】(発言) ○友だちのよかったところを見つけ、発表することができる。 【自分自身】(発言) ●発表の中から必ず評価点を見つけるようにさせる。
ま と め・表 現	⑧ 21 22 23 24	出前授業をする。 出前授業のふり返しをして成 果を見つける。 本単元全体の学習を通しての 成果を見つける。	○3年生に分かりやすく教えることができる。 【自分自身】(行動観察) ○活動をふりかえり、自分や友だちのよかったところをワーク シートに書いたり発表したりすることができる。 【自分自身】(ワークシート)(発言) ○自分の考えを伝え、自分と異なる意見も聞き入れることがで きる。【他者や社会】(発言) ●自分の行動のふりかえり、友だちからの評価、3年生からの 感想をもとにして、達成感・成就感を味わえるような声かけ をする。

6. 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・3年生へ出前授業を行う際に、「昔の人の工夫や努力」を伝えるための発表内容を考えることができる。【他者や社会】
- ・グループ内での話し合いの中で、よりよい考えをまとめることができる。【他者や社会】

(2) 本時の展開 (1 1/2 4)

	学 習 活 動	●主な支援 ○評価
つかむ	1. 課題別グループに分かれ、それぞれの課題を確認する。 昔の人の工夫や努力を3年生に伝えるために どのような発表をするか考えよう。	●グループの課題を再確認する。
活動する	2. どのような発表をするか考える。 (個人の活動) ・自身が決めた課題の中で昔の人の工夫や努力というねらいが伝わるような発表内容を考える。 3. 意見交流を行う。(グループで話し合う) ・進行係を決め、その人を中心に話し合を進めていく。 ・個人で考えた内容を持ち寄り、ねらいにあった内容であるかどうか考えながらグループで話し合い、検討する。 ・決まった発表内容を画用紙に書く。	●昔の人の工夫や努力を伝えるというねらいにそった内容であるかどうか考えながら話し合いを進めさせる。 ●グループ全員の考えを発表させ、それぞれの良いところと改善点を挙げ、発表内容を決めさせる。 ○人の考えを聞き、自身の考えと比べてよりよい考えを考えている。【他者や社会】(発言)
まとめる	4. 課題別グループで決めた発表内容を発表する。 ・内容の中のアピールポイントも挙げながら発表する。 ・3年生にねらいが伝わるかどうか考えながら聞く。 5. 次時の内容を聞く。	●決めた発表内容によって3年生に昔の人の工夫や努力が伝わるか考えながら聞かせ、意見交換させる。 ●意見交換の中で改善した方がよいと児童が思えば改善させる。 ●次時は実際に発表内容に沿って話し合いをすることを伝える。

(3) 評価

- ・3年生へ出前授業を行う際に、「昔の人の工夫や努力」を伝えるための発表内容を考えることができる。【他者や社会】
- ・グループ内での話し合いの中で、よりよい考えをまとめることができる。【他者や社会】

資料① 旭が丘の地名

「旭が丘」の名を初めて聞いた時、風光明媚な周りの景色と共に、新たなまちづくりへの希望と夢を感じる人が多いであろう。

『日野の小字名』『日野市 七生地区の地名と昭和の高幡』2002
(平成14)年12月(日野の昭和史を綴る会)によると、江戸時代、この地域は「高倉原」と呼ばれ、周辺の村々の入会地であったと言われている。やがて新田開発が行われ、平山村、高幡村等の石高の増加された分のほとんどはこの高倉新田からのものであったと考えられている。
また、八王子の長沼村の西半分が(西長沼)、明治22年に七生村分となり、現在の平山工業団地の東芝や東京電子の辺りは西長沼と呼ばれていた。



屋上より雑木林を望む

入会地であったこの地域は小字が錯綜し複雑な地名となっていた。そこで、地番をわかりやすくスッキリさせるために、昭和48年7月15日から住民の投票により「旭が丘」という名が使われるようになった。そして、これ以後、大字でいう西長沼、栗ノ須、日野、豊田、平山、南平・高幡の一部は旭が丘となりました。

(広報 ひの 第346号 昭和48年7月1日)

資料② 日野市平山台地区土地区画整理事業

未開発地域を整備し、よりよい街づくりを進めていくために昭和38年この事業がスタートした。当時のこの地区は、ほとんどが農耕地でところどころに人家と雑木林が散在していた。地区の南部には帝人(昭和35年)東芝(昭和39年)等の建設が進められていた。この事業の目的は、土地の区画や形を変更して、土地利用の促進を図ることであり、道路や公園の建設を中心に事業が進められていた。

この他、区画整理事業と関連して、工場用地、住宅用地などの造成、分譲も進められていた。学校についても、市立第四中学校、都立工科短期大学が地区の中に開校した。(日野市平山台地区土地区画整理事業 しゅん功記念誌より)

資料③ 平山工業団地

昭和33年2月1日 旧日野町と七生村が対応合併するが、七生村はこの合併に際し、財政面ではるかに劣っていたため、大会社の誘致を高倉・平山台地に行くことを考えた。この地域を工業地帯とし工場を誘致し、税の増収を図ることを村の指導者や青年が決めた。この計画が、合併後の新日野町で、「平山台地区整備事業」「工場誘致条例」となって発展したという。ここに、ファナック、東芝、帝人、千代田自動車、吉河電気、凸版印刷などの企業が進出してきたという。『日野の小字名』『日野市 七生地区の地名と昭和の高幡』こうして、現在の公害を出さない旭が丘地区の工業団地の原型は出来上がった。

資料④ 炭焼き体験

炭焼きの方法(疑似体験)

- ① 雑木林で枝打ちした方が良い枝(木)を選ぶ。
- ② 大きな缶を用意しこの中に雑木林で採った枝を入れ、アルミホイールで蓋をする。(2箇所穴を開ける。)
- ③ 雑木林の竈に火をかけ、1時間ほど熱する。
(煙が白から無色に変わった頃。)



雑木林の竈を使った炭づくり

資料⑤ 炭焼き授業の記録

ゲストティーチャーに教えてもらう

杉浦 銀治 先生

- ・ 炭の良さについて説明してもらう。
- ・ 燃料としての良さだけでなく、様々な用途に活用できる。
- ・ 炭で調理したものはそうでないものと比べ味が違う。
- ・ 環境保全のために使うこともできる。



講話される 杉浦 銀治 先生

杉浦 銀治 先生 略歴 日野市環境情報センター資料より

- ・ 1925（大正 14）年、愛知県安城市生まれ県立安城農林学校林科卒
宮内省帝室林野局東京林業試験場（現・森林総合研究所）を経て 75 年より定年退官の 85 年まで、農林省林業試験場木炭研究室長を務める。退官後も木炭研究と普及に努め、「炭やきは地球を救う」を提唱国内外で炭焼き指南の旅を続ける。現在、国際炭やき協会会長、炭やきの会副会長、多摩炭やきの会会長等を務めている。

雑木林での講話

雑木林の中に入りどのような枝を払い炭作りに使うのか教えてもらう。

- ・ 雑木林に多いクヌギやコナラは炭の材料としてとても良い。
- ・ 無駄な枝を払い、炭にする事は雑木林の木々を活性化することにつながり、かつての生活は環境の保全に結びついていた。



雑木林での講話

雑木林での炭焼き体験

- ・ 写真右側のコンクリの囲みが、竈。
- ・ 子ども達はこの竈を使って炭焼きの疑似体験を行った。
- ・ この時使った燃料と炭の材料も雑木林で枝うちした材料を使う。



雑木林の竈



適当な大きさに枝を切る

(9) 武士の世の中とくらしー落川遺跡や胎内文書を活用してー

(第6学年 社会)

1. 教材について

かつて多摩川や浅川沿いの低地は氾濫原になっていたことから、人々は居住していなかったと言われてきた。しかし、近年の考古学の進展や発掘技術の向上などに伴って、台地上より川沿いの沖積微高地を中心に人々の生活が展開されたことが明らかになってきた。例えば、市内では南広間地遺跡や栄町遺跡などで、古代から近世にかけての遺跡が発掘されるようになった。特に、4世紀(古墳時代前期)後半から14世紀前半代(鎌倉時代)まで続く落川遺跡からは、竪穴住居約800軒、掘立柱建物約350棟などが出土している。また、出土した鉄器を大別すると鎌や鋤(すき)、鍬(くわ)などの農具や馬具(轡や焼印)、小鉄刀、鉄鏃(矢じり)などの武具である。これらの遺物から、平常時には農業や牧場の経営をし、いざ戦さとなれば武装して馬に乗った半農半武士集団の姿が想像できる。いわゆる武士団の始まりであるが、同時に教科書に掲載されている周囲に堀が巡らされ、門の上には物見櫓がある「武士のやかた」に近いものが出土している。時期的には11世紀か12世紀のもので、東西約45m、南北約60mの柵列か板塀で囲まれ、東に門のある武家屋敷が出土している。周囲に堀はないが、内部の建物の中には東・西・南に目隠し塀の付いているものもある。

さらに、市域には『吾妻鏡』や『平家物語』に登場し、鎌倉幕府に仕えた平山季重が居住していたと言われている。また、国の重要文化財に指定されている高幡不動の胎内文書からは、断片的ではあるが1339(暦応2)年から翌年にかけての常陸合戦(足利尊氏と北畠親房の争い)に参加した武士(山内経之)の生活や戦いに臨んでの気持ちまでも読み取ることができる。

小学校6年の「武士の世の中」(鎌倉時代)の学習を進めるにあたって、部分的にはあるがこれらの遺跡や遺物、文書などの資・史料を活用することによって、日野という地域の歴史を理解させるとともに、日本の歴史を児童の身近なものにさせることができるのではないかと考えて教材化することにした。

2. 指導計画

社会科 第6学年 小单元名「武士の世の中とくらし」

(1) ねらい

- ・源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦いに関心を持ち、この頃武士による政治が始まったことが理解できるようにする。
- ・年表や文章、イラスト、写真などの資料を効果的に活用し、源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて具体的に調べ、調べたことを目的に応じた方法でノートなどにまとめる力を育てるとともに、源頼朝などの人物の業績について考える力を育てる。
- ・身近な市域に武士の世の中に関する歴史的な遺跡(落川遺跡など)や文化財(高幡不動など)があることを知り、山内経之の手紙(高幡不動胎内文書)から武士の戦さへの不安や家族への思いやりに共感できる心情を育てる。

(2) 指導計画(全7時間)

過程	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
気づく 2	◆ 落川遺跡の出土品(鉄器)の写真を見て、気づいたことを話し合う。 ・刀や矢じり、馬具から、馬に乗り戦さをするこゝもあつた。 ◆ 落川遺跡の出土品と関連づけて「武士のやかた」の絵に描かれている人物や生活について考えよう。 ・敵がせめてこないか、門の上で見張っている。 ・馬に乗つて弓矢の練習をしている。 ◆ 武士はどのような生活をしていたのかまとめる。 ・ふだんから武芸に励み、馬の世話や武具の手入れをしていた。 ◆ 「貴族を巻き込んだ武士の戦い」の絵図(平治物語絵巻)の由来を知り、貴族中心の政治が武士の力を借りるまでに変化していることを理解する。 ◆ 武士が政治の舞台に登場する背景について、それまでの歴史の流れから考える。 武士は、どのような政治をおこない、またどのような生活をしていたのでしょうか。	・地図を使って落川遺跡の位置(市内の東端)を知らせ、I C Tを活用して出土品(鉄器)の写真を見せ、それをもとに考えさせる。 ・落川遺跡からは、「武士のやかた」と同じような遺跡が出土していることを知らせ、「貴族のやしき」の絵と比べて、違いを見つけながら、武士のくらしの特徴に気づかせたい。 ○武士を中心に当時の人々の生活の様子について考えることができる。 ○教科書の資料を活用して武士のくらしについて調べ、まとめることができる。 ・平治物語絵巻は、貴族中心の政治に対して源氏と平氏が武力介入した象徴的な出来事を表すものであるが、この絵図からそのことを読み取るのは困難なことから、教師の方で説明をする。 ○武士による政治の始まりが、我が国の社会の発展に果たした役割を考えようとしている。 ・今まで学習したことをもとに、問題を考えようとしているか。
	◆ 「源氏の軍の進路」の地図を参考に、源頼朝の挙兵から源氏と平氏の争いが全国的に広がったことを確かめる。 ◆ ワークシートを使いながら、「富士川の戦い」「一ノ谷の戦い」「屋島の戦い」「壇ノ浦の戦い」など主な戦さを取り上げ、源氏と平氏の戦いはどのような戦いだったのか調べる。 ・一ノ谷の戦いでは、平山季重と熊谷直	・平氏一族を中心とした政治に対する武士の不満を教科書で押さえる。 ・日野市域に居住していたといわれる平山季重の活躍について紹介する。 ○様々な資料を用いて源平の戦いについて調べようとしている。 ・手元に『社会科資料集』がある時は、それを活用するが、場合によっては教師の方で文章や写真などのわかりやすい資料を準備しておく。

調 べ る	実が先陣争いをした。 ◆ 源頼朝や武士たちはどのような世の中を作り、どのような政治をしたのか予想する。 ・貴族の華やかなくらしと比べ、武士はどのような生活をしたのだろう。 ◆ 頼朝はなぜ鎌倉に幕府を開いたのか、「鎌倉」の図や「鎌倉への道」の地図をもとに予想する。 ・周りを山や海に囲まれていて、敵が攻撃しにくい。→切通し ・味方になってくれる武士が周りにいた→鎌倉街道でつながっている。 ◆ 朝廷との戦い(承久の乱)の際、「いざ鎌倉」と鎌倉に駆けつけ、命がけで戦った武士たちと幕府の関係について考え、話し合う。 ・ご恩と奉公の関係 ・「政子のうったえ」 ・「鉢の木の物語」 ◆ 朝廷の軍を打ち破った後の幕府の力についてまとめる。 ・幕府の力は西国まで及ぶようになった。 ・将軍の死後、北条氏が執権として幕府の政治を進めていった。 ◆ 多摩市に残る鎌倉街道の地図から鎌倉とのつながりについて考える。 ◆ 山内経之が戦場から家族に送った手紙を読み、何が書かれているのか読み取る。 ・命令に従って戦さに参加しないと、領地を取り上げられてしまう。 ・戦さに参加する費用は、自分で出さなくてはいけないので借金をしている。 ・戦さの激しさから、今度は死かもしれない。	・平氏を倒した源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことを教科書で押さえておく。 ・貴族の生活と比べたり、「武士のやかた」を想起させたり、武士の生活にも目を向けさせる。 ・「鎌倉」の図から、鎌倉は山と海に囲まれた天然の要害であることに気づかせたい。 ・「鎌倉への道」の地図から、鎌倉街道が鎌倉を中心に各地方に広がっていて、幕府とつながりの深い武士たちが関東各地にいたことに気づかせたい。 ・承久の乱について説明する。 ・「頼朝のご恩と政子のうったえ」「鉢の木の物語」は幕府と武士の結び付きを考える手がかりとしてじっくり読ませる。 ○幕府と武士の結びつきについて考えることができる。 ・源氏の将軍は3代で絶えてしまい、その後は、執権北条氏によって政治がおこなわれたことを示す。 ○幕府が全国的に力をもってきたことが理解できる。 ・地域教材「鎌倉街道の地図」をもとに前時の復習をすると、同時に日野市域が関戸(多摩市)を経由して鎌倉と結び付いていたことに気づかせたい。 ・高幡不動の胎内文書は、高師冬に従軍した山内経之という武士がその家族や金剛寺の僧らに宛てた書状が中心になる。南北朝の対立期のものであるが、ここではご恩と奉公の具体例として取り上げ、同時に戦さにおける武士の気持ちについて考えさせたい。 ・胎内文書や山内経之の概略については説明し、地域教材「山内経之の手紙」を活
-------------	--	---

	・頼れる者のいない家のこれからのことを心配している。 ◆ 教科書の絵図や文章をもとに元の大軍が、2度も日本に攻めてきたことを調べる。 ◆ 「元との戦い」の絵図を見て、元の兵士と日本の武士がどのように戦ったのか話し合う。 ・武器や服装の違い ・戦い方の違い ◆ 元との戦いの後の幕府と武士の関係について考える。 ・幕府：活躍した武士に与える領地がない。 ・武士：恩賞として領地がほしい。戦いの出費で生活が苦しい。 ・ご恩と奉公の関係が崩れる。	用する。 ○山内経之は、なぜ命をかけて戦さに加わったのか、また戦場での彼の気持ちについて考えることができる。 ・教科書の地図から元の国の大きさについて気づかせたい。 ○教科書などの資料から戦いの様子について進んで調べることができる(ノート、発表) ・武器の違いに着目させる。 ・武士の戦い方に関心を持たせたい。 ○元寇後の幕府と武士の関係について考えることができる。 ・元に攻められ、日本を守るために戦ったので、新しい領地が手に入れられなかったことに気づかせたい。
まとめ 1	◆ 鎌倉時代について、年表を中心に出来事などについて簡単な説明を入れてまとめる。 ・紙面の構成を工夫する。 ・自分の考えも入れて書く。 ・補足資料やパンフレットなども参考にして書く。	・年表の書き方を確認した後、主な出来事について話し合う。さらに、印象に残ったことや自分の考えなども入れて簡単にまとめさせる。 ○学習したことを中心に、調べてわかったことを加え、工夫してまとめることができる。

※第5時「山内経之の手紙」は、発展として「まとめ」の次に実施してもよい。

3. 本時の指導

(1)ねらい

身近にある落川遺跡の遺物や「武士のやかた」の絵をもとにして、地域の昔や武士を中心とした当時の人々のくらしの様子について考えることができる。

(2)展開(1/7時)

主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
◆ 落川遺跡の出土品(鉄器)を見て、気づいたことを話し合う。 ・スキやクワを使って畑をたがやした。 ・くつわから、馬に乗っていた。	・地図を使って落川遺跡の位置(市内の東端)を知らせ、ICTを活用して出土品(鉄器)の写真を見せ、それをもとに当時のくらしについて気づかせる。
・刀や矢じりから、戦さをするこ	・部分だけでわかりにくい道具については名

あった。 落川遺跡では、どのような暮らしをしていたのでしょうか。	称と全体像を知らせ、その使用法から当時の生活を気づかせるようにしたい。
◆ 落川遺跡の出土品と関連づけて「武士のやかた」の絵に描かれている人物や生活について考えよう。 ・ やかたの周りには田んぼがあり、米が取れる。 ・ 敵がせめてこないか、門の上で見張っている。 ・ やかたは、へいや堀に囲まれて、敵に備えている。 ・ 馬を飼っている。 ・ 馬に乗って弓矢の練習をしている。	・ 落川遺跡からは、「武士のやかた」と同じような遺跡が出土していることを知らせる。 ・ 落川遺跡の出土品は、「武士のやかた」の絵の中のどこに使われているか着目させてから考えさせる。 ・ 絵の中で、どの人物が武士なの考えさせる。 ・ 「貴族のやしき」の絵と比べて、違いを見つめながら、武士のくらしの特徴に気づかせたい。 ○ 武士を中心に当時の人々の生活の様子について考えることができる。
◆ 武士はどのような生活をしていたのかまとめる。 ・ ふだんから武芸に励み、馬の世話や武具の手入れをしていた。 →自分の領地を守るため いざという時に家や家族を守るため。	○教科書の資料を活用して武士のくらしについて調べ、まとめることができる。 ・ 理由についても考えさせたい。

4. 資料

(1) 児童用資料

① 落川遺跡出土品の写真（左上：鉄鏃、左下：刀子、右上：鎌、右下：轡。東京都教育委員会所蔵）



② 山内経之の手紙

＝地域の歴史を知ろう＝

山内経之の手紙

高幡不動の不動明王(ふどうみょうおう)の体の中から、武士の手紙が約 50 通も見つかりました。それは、不動や大黒の印が押され、ばらばらにされた紙の裏に書かれていました。調べてみると山内経之(やまのうち つねゆき)という日野に住んでいた武士が、戦場から家族(妻と息子)へ送ったものだということがわかりました。手紙は、1339(暦応 2)年 7 月から 1340 年にかけてのもので、山内経之は 1340 年に戦死したと考えられます。短い手紙が多いので、まとめてみました。

☆

☆

☆

元気でくらしていますか。知っていると思いますが、私は、武蔵守護(むさし しゅご)の高師冬(こうの もろふゆ)様に「もし戦さに参加しなければ、領地(りょうち)を取り上げる」と命令されて、戦さに出かけました。命令にしたがわないで、領地を取り上げられた人もいます。

戦さでは駒城(茨城県下妻市)を攻めることになりました。ここまでの食料や旅費、さらに馬や武具などすべて自分でお金を出さなくてはなりません。鎌倉の家を 1 軒売って、この費用にあてましたが、それでもお金が足りなくなりました。そこで、近くのお坊さんにお金を借りて送ってください。また、戦さが長びき、茶や干し柿、かち栗など生活に必要なものが不足しているので、それも送ってください。

戦争が激しいので、戦死した味方の人の馬をもらったり、兜(かぶと)も人から借りたりして使っています。夜に敵が攻めてくるといううわさがあり、ゆっくり眠ることができないこともあります。戦いが何回もあり、たくさんの敵や味方がけがをしたり死んだりしていますが、わたしは何とか生き残ることができ、大将(たいしょう)から感謝状をもらいました。

城は、今年中(1339 年)には落ちそうもないし、最近では寒くなってきたので一度家に帰りたいと思っています。しかし、敵の近くにいたので、簡単に許されそうもありません。家を守るしっかりした大人(おとな)がいないので、とても心配です。少年のおまえだけが頼(たよ)りだから、1 人前の男として母親と相談して領地をおさめるよう努力してください。

今度の戦いは激しくなりそうで、今までは運がよかったのですが、これから先は生きのびることができないかもしれません。そうになると、自分のいない家のことがとても心配です。くれぐれも家のことをたのみます。

むすこへ

父より

(2) 教師用資料

① 落川遺跡

1977(昭和 52)年 12 月に発見された落川・一の宮(日野市・多摩市)遺跡は、1978(昭和 53)年以降、都営住宅や都道・区画整理地区の 58,650 m²を対象として発掘調査が行われた。古代集落は洪積丘陵地に存在していることが一般的であったが、ここでは沖積微高地を中心として形成され注目を集めた。発掘の結果、古代(4 世紀後半)から中世(14 世紀前半)までの竪穴 817、掘立柱建物 342、土抗 2,277、溝 110、鍛冶炉 4 などの遺構が重複して検出された。ここに住んだ人々は、たびたび起こる洪水や冠水に対して地形を生かし、高度な治水技術を駆使して居住地や農地を確保

して暮らしてきた。出土した鉄器は農具・馬具・武具などで、教科書に掲載されている「武士のやかた」に近い建物も発掘されている。

律令体制の崩壊とともに逃亡した農民を集め、平和時には農業を基本に製鉄や土器の生産、炭焼き、牧の経営など丘陵と沖積地の両方を活用し、そこで得た富を守るために武装化し、戦さになれば下人や所従を連れて出陣した武士団の存在が想像される。

② 常陸合戦と山内経之

1333(元弘3)年、新田義貞の鎌倉攻めによって鎌倉幕府が滅亡する。次いで、後醍醐天皇が主導する建武政権が出現するが4年余りで崩壊し、南北朝時代に入る。1338(暦応元年)、南朝方の北畠親房は地方に拠点を築いて反撃しようと伊勢大湊を出帆して東国に漂着、足利方と戦うことになった。1339(暦応2)年4月、足利方の有力武将高師冬は、北畠親房を攻撃するため京都を出発して東国へ向かった。鎌倉で準備をした後、同年9月に村岡宿(埼玉県熊谷市)で軍勢を終結して常陸合戦に望む。山内経之は、8月高師冬に従って鎌倉を立ち、9月には村岡宿を経て下総の下河辺庄、さらに下総結城郡山川の陣所に着いている。ここは目前に常陸の駒城があり、長期間滞在したようだ。しかし、1340年2、3月の合戦で経之は討ち死にしたと考えられる。なお、同年5月に駒城は一度陥落するが、その直後に北畠軍の総反撃にあい、高師冬は退却している。



常陸合戦関係図

(『村医者と医者村ー多摩の医療奮闘記ー』)

胎内文書は69通73点あり、そのうち経之の手紙は50通で、木造不動明王坐像の胎内(首部)から見つかっている。この文書の裏には、不動明王や大黒天の木製スタンプが押されている。これは、呪符として印仏の頒布が高幡不動で行われ、その用紙として使われた可能性がある。いずれにしても、経之の供養のために胎内に収められたと考えられるが、その経緯はよくわからない。それは、経之の亡くなる前の1335(建武2)年8月、山頂にあった高幡不動堂は暴風で倒れているからである。このため、儀海が中心となって募金活動が行われ、1339(暦応2)年に丘陵地の下で再建の工事が始められる。1342(康永元)年に完成した後、手紙が収められたようである。なお、日野市域での経之の活動時期は、鎌倉幕府の滅亡と共に日奉氏系の武士が没落すると、その代わりに領主として入って来る。しかし、定着することなく戦死し、やがて高麗氏の勢力が拡大していく。

参考文献

『日野市史通史編2(上)』日野市史編さん委員会 1994年

『日野市史 史料集 高幡不動胎内文書編』日野市史編さん委員会 1993年

『落川遺跡Ⅱ』日野市落川遺跡調査会 1997年

『古代文化 東国平安時代集落遺跡論』第56巻第7号 古代学協会 2004年

『「郷土日野」指導事例第2集』日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会

2 新たに収集・開発した郷土資料・教材

(1) 橋（浅川）と人々の生活 （第3・6学年 社会・総合的な学習の時間）

1. 教材の意図と概要

かつては、“米どころ日野”と呼ばれているように、浅川は一面に広がる田んぼの水を潤してきました。一方、台風や集中豪雨によって橋が流されれば、仮設の橋ができるまでは、対岸へは大きく遠回りをしなければなりませんでした。

現在、浅川には6つの橋が架設されています。高幡橋、平山橋は古く、明治時代には架設されていたことが記録として残されています。いずれの橋も、町の発展変遷との関わりは深く、時代のニーズに合った架け替えが行われてきています。

昭和33年、長年の懸案であった浅川の北側にある日野町と、浅川の南側の七生村が合併し、新生日野町が誕生しました。この時、新生日野町は、市街の動脈となる都市計画街路の新設を打ち出し、その中で注目するのが浅川を挟んだ旧日野町と七生村をつなぐ橋の建設でした。将来に向けた町開発の重点施策として、旧七生村の南平と旧日野町の豊田とを結ぶ“南豊橋（仮名）の新設”5カ年計画が出されています。そして、5年後の昭和38年には、待望の“一番橋”が完成しています。

このような歴史的な事柄から、改めて日頃見慣れている橋を見直してみると、新しい発見ができそうです。

- 例えば
- 地形や、地域性からみる 土橋、木橋、コンクリート橋、石橋、橋脚等
 - 橋の役割からみる 他地域との結びつき（物の流通、人の行き来…）
行政上の必要性（役場、公共施設…）等
 - 橋の名前の由来からみる 町や村の境、町や村の変遷等

石橋供養塔や橋の設置記念碑が近くにあれば、当時の人々の橋への願いを読み取ることもできますので、合わせて活用してみてください。

ところで、橋は道路と一体になっています。およそ80年前の「日野町郷土記」（昭和8年7月現在 日野町）によると、道路の機能を次のように記しています。

「道路は交通上施設の主なるものにして、吾々の生活と密接な関係を有し、産業発達と文化の促進とに貢献するところが最も大である。近来各都鄙の産業発達、商工業の隆星、人々の増加等により交通は益々増加し、道路も之に順応せんがため、各処に改善、築造せられて居ることは喜ばしきことである。

商工業地に立派なる道路の発達するは当然なるも、農村には地形に左右せられた小径多く、これ等の道路は車の牽引力を殺ぐこと大きく、雨天または冬季には泥濘となり歩行も困難にして交通不便なれば、これ等の道路に於いても道路の改善は許かせにすべからずものがある。国道府道においては道路漸次改善せられ、町内においても近年各処に幅員の拡張、勾配緩和、屈曲の矯正等行われ、交通量に順応する道路となれり。以下略）」

以上、橋の歴史、橋の名前の由来、役割等から、その地域の人々の暮らし、仕事や働き、願いを考え、今も昔も、橋は町の発展と大きく関わっていることを理解させ、「水の郷日野」のまちのこれからを考え描く学習活動が考えられるのではないのでしょうか。

2. 橋と町の発展の活用例

(1) 3年生社会科 単元「わたしたちの日野 小単元〈学校のまわり〉」

この単元、中でも小単元〈学校のまわり〉は、年間学習計画の最初の扱いであり、全単元を見通した導入的性格が強い。

地形の様子、集落分布、土地利用等の観点から自分たちの住む地域にどんな特色があるかを、自然環境と人々の生活との関連から学習し、理解させるとともに、観察力を育てることがねらいである。

- ①屋上から見たり、地域めぐりを通して学校周辺の様子に関心をもつ。
- ②川（用水）が自分たちの日常生活と密接な関係があることに気付くとともに、橋をわたる人や車の交通量を調べたり、川や川沿いの景観を観察したりして、住んでいる地域の特色を把握する。
- ③川（用水）や橋が、町の人々の生活に果たす役割を考える。
- ④川（用水）の水路をたどって市の広がりをとらえ、これらの地域の土地の高低や土地利用の様子について調べる。（「わたしたちの日野」活用）
- ⑤土地の高さのことなる地域について関心をもって同様に調べる。（「わたしたちの日野」活用）
- ⑥次小単元「市の人々の暮らし」、単元「地域のうつりかわり」の伏線とし、“水の郷 日野”“緑と清流の町”といわれるそのわけを考え、感得させたい。

(2) 6年生社会科「市民の願いを実現する政治」

政治とは、問題を解決し、人々の安全で幸福な生活の確保、向上、発展への願いの実現を目指す働きであることについて理解させることがねらいである。

- ①地域開発の問題として、浅川の橋の架設の経緯を取り上げ、当時の人々の願いや実現への期待、行政の施策への考えを挿入的に扱う。（当時の「広報ひの」を活用）
- ②国民の安全な生活を脅かす問題として予想不可能な災害がある。そうした災害防止のための護岸工事や橋の架け替え工事等が国の立場で行われていることについて、日常の生活経験を生かし、堤防工事、浅川の橋の架け替えを挿入する。

(3) 総合的な学習の時間

地域性や、地域の特色等について学習を展開するときに、川と橋の関わり、その歴史、架設の背景、橋の名前の由来等を学習内容に位置づけ、“水の郷”“緑と清流の町”と言われる日野の町のこれからを展望させたい

3. 資料

(1) 滝合橋について

①名前の由来

ア、滝合は浅川の支流湯殿川が合流する地点である。「日野市史 別巻 市史余話」
イ、八王子往還字滝合前に滝合橋が架す。「平山村誌 上」

★浅川と湯殿川との合流、川の水の流れ落ちる地点の様子から字名「滝合」ができ、

「滝合橋」の名前がつけられました。

②現在の滝合橋架設の概要（広報ひの 第 220 号、第 335 号参照）

－昭和 43 年に一部を残して開通、44 年に全面開通－

ア、平山と川北地区を結び、浅川に 5 つ目の永久橋として架設されました。市内西南地域の発展をになう大動脈としての役割を担う国道並みの橋の完成は、人々の一日千秋の願いでした。

イ、片側に歩道がつき、鉄筋コンクリートづくりの橋は、京王線平山城址公園駅を利用する川北地区の住民にしてみれば、その開通が待たれました。

③現在の橋のできる以前の様子（広報ひの 第 335 号参照）

コンクリート製の滝合橋ができる前は 台風や集中豪雨のたびに流されていた仮設滝合橋でした。

（２）平山橋について

①名前の由来

★平山村は、浅川を挟んで北と南にありました。村にできた橋ということで「平山橋」という名前がつけられました。

②現在の平山橋架設の概要（広報ひの 第 476 号）

－昭和 56 年河川部分が開通、京王線高架部分は 57 年に開通－

ア、“生まれかわる平山橋” と、広報ひのに掲載

都の 5 か年計画による架け替え。

橋の幅員が広がり、両側に歩道並びに休憩所がつくられ、欄干のカワセミが通行者の心を和ませる。

イ、現在の橋は 2 度目の架け替えである

大正 2 年最初の木橋架設⇒⇒昭和 11 年コンクリート橋に架け替え⇒⇒昭和 56 年架けられ、現在に至る。

③昔の様子

ア、桑田村があった頃 （平山小学校開校百周年記念誌「平山の歴史」参照）

「桑田村（豊田地区）と七生村（平山地区）とを連絡するために浅川に平山橋が架けられました。川幅は現在の浅川と変わらなかったようですが、毎年秋になると、水かさが増し、土砂崩れがありました。

台風のたびに橋が流され、目の前の桑田村まで行けず、高幡村まで歩いて行き、向こう側に渡ったそうです。そういうときには、村人たちみんなの力で橋や土手の修理をしました。また、水害がおこる時期になると水番という見張りが立てられ、水害による事故をなくす工夫がなされました。」

イ、橋の架け替えをするための費用

「平山共有地を売却し、平山浅川橋梁及び用水路橋梁の架換里道改修費に充つ。」

（七生村誌 下巻 「明治 25 年 3 月 25 日会議録」参照）

ウ、大正 2 年平山橋の架設（平山小学校開校百周年記念誌「平山の歴史」参照）

「大正 2 年 一本橋でなく、木の橋がかけられました。この頃はまだ、橋の修理

費などすべて民費で村人たちの力によるところが大でした。

昭和 11 年 3 月 現在のような永久コンクリート橋が東京都によって架橋されました。 全長 126, 3 メートル, 幅員 5, 5 メートル。」

(3) 一番橋について

①名前の由来

ア、新日野町が手がけた 1 番目の架橋であること

イ、全国の町村では、当時一番大きな橋であること

②現在の一番橋架設の概要(広報ひの 第 1041 号参照)

ー平成 14 年 7 月 7 日開通ー

ア、歩道と車道の分離を推進し、歩行者空間の安全性と快適性の確保を目指し完成しました。

イ、一番橋の開通式 平成 14 年 7 月 7 日(日)

式典のあと、渡り初め、続いて日野ふたば幼稚園児・日野二小児童・七生中生徒による演奏、平山児童館利用者による「ロックソーラン節」が披露されました。



くす玉の中から「祝一番橋開通」



橋の上で繰り広げられたロックンソーラン節

ウ、橋の規模

橋長 123, 2 メートル、車道 9 メートル、歩道 両側に 3, 5 メートルずつ

橋脚 2 基、重量制限 25 トンまで

③架け替え前の橋の様子(広報ひの 第 110 号、139 号参照)

ー昭和 38 年に開通ー

ア、昭和 33 年(1958)2 月 1 日、旧日野町と七生村が合併し、新日野町が誕生。

新町建設計画に、豊田と南平を結ぶ「南豊橋新設」が盛り込まれ、架橋工事は昭和 35 年度～37 年度の 3 カ年で実施。総工費は 4 千 2 百万円。当時の町の一般会計当初予算額の 11%に及ぶ大事業でした。

イ、開通式は昭和 38 年 4 月 16 日に行われました。

この年の 11 月 3 日日野市が誕生しています。

ウ、橋の規模 橋長 130 メートル、車道 6, 1 メートル、
歩道 片側に 3 メートル、橋脚 4 基、 重量制限 14 トンまで(重
量制限の標識が立つ)



昭和 35 年頃 板橋をわたって南平から豊田へ（後方の高い木は日枝神社の“むくの木”）

（４）高幡橋について

①名前の由来

高幡橋と命名されたわけ【日野市史通史編三 近代（一）】

新架橋命名之儀ニ付上申 日野往還 南多摩郡七生村大字高幡浅川筋二架ス 一板橋 右架橋位置は前后とも七生村大字高幡地内ナルニ依リ、 該地名ヲ以テ高幡橋ト命名相成リ候様致シタク、此ノ 段上申候也 明治三十五年一月十五日 第七土木吏員駐在所主幹代理 属 福岡金之助 内務部御中	新架橋命名之儀ニ付伺 仮定県道日野往還浅川筋二架スル新架橋 一高幡橋 右命名然ルベキ哉 （理由）別紙土木員ノ上申ニ依ル。尚同橋ヨリ些ニ一丁ノ所ニ、 高幡ノ不動ト称スル数百年来ノ巨刹アルヲ以テ、高幡ノ地名ハ広 ク衆庶ノ記憶ニアル土地ニシテ、一ツノ名勝ナルニヨリ、斯ク命 名スルヲ適当ト認ムルニヨル 後略
--	---

※七生村の高幡地内にできた橋であること、さらには、橋からわずか 2 1 丁のところに昔か
ら名勝となる有名な高幡不動尊があり、高幡橋という名前は適切であることが書かれている。

②現在の高幡橋架設の概要（日野広報 昭和 47 年 12 月 15 日発行 333 号）

－昭和 50 年に開通（2 回目の架け替え）－

ア、大正 12 年に架けられた橋の老朽化により、都は 3 年計画で橋の架け替え工事を行いました。架け替え後の現在の橋は、以前の橋より約 50 メートル上流につくられています。

京王線との立体交差により踏切は閉鎖されました。以前の橋をわたり京王線に通じる道路のなごりが現在も見られ、京王線の線路手前で道路は止まっています。

イ、橋の規模

橋長 190 メートル、車道 10, 5 メートル、
歩道 両側に 2, 4 メートル（大正 12 年の橋は歩道と車道の区別なし）
橋脚 2 本（その前は 12 本の橋脚）

③昔の橋の様子（広報ひの 第 333 号参照）

ア、明治 35 年（1902）はじめて架設されました。日野町と七生村高幡を結ぶ板橋（118, 2 メートル）で重要な役割をもちました。

イ、大正 12 年に 1 回目の架け替えが行われました。

その後、昭和 30 年代後半になると車の往来も激しくなり、交通渋滞が続き、老朽化も進み、新しい橋の架け替えが待ち望まれました。

（５）万願寺歩道橋（ふれあい橋）について

①名前の由来

浅川をはさみ、南側の高幡地区と北側の万願寺地区の区画整理事業が行われる中で、架設されました。人の往来のための歩道橋で、吊り橋は日野市のシンボリックな存在です。眺望がきき、育成会で行っている初日の出マラソンの折返し地点として、浅川サバイバルレースのゴール地点として（現在は行われていません）、浅川ロードレースのコースとして、また語らいの場としてなど、人道橋ならではの役割を果たしています。橋やその周辺はドラマ、映画のロケ地としても使われています。

通称“ふれあい橋”とも呼ばれています。

橋のわきにたっている標石を読むと、浅川の水路の様子と時代の移り変わりがわかります。

＜標石に刻まれた由来記＞

高尾山を源流に 八王子、日野の 沃野を潤して 多摩川に合流する浅川 古くより 由緒ある 農耕文化を育て 現在では都市河川となって 市街地に貴重な自然空間をつくる

このあたりは かつて 左岸は 日野町万願寺 右岸は 七生村高幡地籍の氾濫原であったところ

今日 都市化のすすむ 未来を望んで 土地区画整理事業を施行し 住む人の往来のため 兩岸をつなぐ歩道橋を思い立つ ここに 緑と清流のまちにふさわしく 優雅な吊り橋の景観を創って 事業成功のモニュメントとし 併せて このまちの 新たなシンボルを目指す

（水路清流課）

②現在の万願寺歩道橋架設の概要

ー 平成 3 年に完成ー

長さ 148 メートル、幅 6 メートル

この歩道橋ができ、万願寺側の住民にとっては通勤・通学・買い物等、京王線高幡不動駅に行くのが大変便利になりました。

(6) 新井橋について

①名前の由来

浅川沿いの字名、“新井”が名前のもとになりました。

②現在の新井橋架設の概要

新井橋上を通る多摩都市モノレールの開通（平成 12 年 1 月 10 日）にともない、現在の橋が完成しました。

③昔の橋の様子（広報ひの 第 104 号参照）

ア、昭和 13 年都において木橋が架けられました。

イ、第 1 回目の架け替えは

昭和 35 年“木橋からコンクリートへの架け替え”

幾度かの浅川の出水により橋脚が痛み、台風によって橋台が流されこともありました。

また、高幡橋同様に車の往来が激しくなり、交通の麻痺状態も続きました。

新たに架け替えられた鉄筋コンクリート作りの橋には、蛍光灯の照明がつけられ、大変明るい橋として人々は喜びました。

開通式では、テープが切られ、平山三夫婦を先頭に来賓多数によって渡り初めが行われました。

全長 136 メートル、幅員 7, 5 メートル。

★旧多摩テックが水源の程久保川には、小宮橋・程久保橋・百草橋・浅川橋等があります。日野用水や豊田用水等、用水についても橋の名前が見られます。できた年代、名前の由来等を調べて見て下さい。なお、夢が丘小学校 6 年生が、程久保川の源流から河口までの現況を調査し、その成果を平成 23 年度の研究紀要にまとめています。

日野用水に架けられた東光寺大橋の碑

【碑文内容】

日野本郷、東光寺村の用水掘りに土橋があり、四隅に槻（けやきの古名）を植えた。これが繁茂したので、天明年間（1781-1788）一樹を伐って板橋とした。

然し、里老等は是を不朽の策に非ずとし、残りの 3 本を売って不足を寄付金で補い、文化 5 年（1808）、石橋とした。

ところが、石質が疎悪であったため、天保年間（1830-1840）に至って橋縁が崩れた。弘化 4 年（1846）、村人等は近くの成就院の子恵法印と協力して伊豆の石を求めて橋をつくった。是に於いて石質が緻密で末永く期待ができ、農夫の耕耘のたすけとなった。

3 関係機関との連携・協力の広がり・深まり

(1) 市教委文化スポーツ課

資料・情報の活用について—実践事例からの展開—

図書館、郷土資料館、文化スポーツ課などには、郷土に関する資料や情報が蓄積されている。本稿では、本事例集で紹介された事例に触れながら、郷土教育におけるそれら資料・情報の活用について、生涯学習施設・機関の立場から述べてみたい。

1. 実物の資料を用いた体験学習

(1) 農具を用いた学習

本事例集には平山陸稲を育てる平山小学校4年生の取り組みが紹介されている。

稲を育てる学習は日野市内の小学校で広く行われているが、こうした学習には郷土資料館が所蔵する農具を活用することができる。特に脱穀・調整用具については、脱粒に用いる千歯抜き、足踏み式脱穀機、籾と藁屑、籾殻などを分別に用いる箕、唐箕、米をふるい分ける篩、万石などの大型農具があり、実働可能なものも数多い。

米は収穫してから食卓に上るまでに様々な脱穀・調整作業が必要だが、それらの農具を利用することで、一連の過程を体験的に学習することができる。また、千歯抜きと足踏み式脱穀機、箕と唐箕、篩と万石というように、同一工程で使われる新旧の農具が揃っており、これらを現代の農作業と比較することにより、農業技術の進歩を体感することもできよう。

平山陸稲には稲が長く藁がよくとれるという特徴がある。藁は燃料や肥料・飼料などになるほか、生活に必要な種々の藁製品を作ることに利用された。このことは、米の副産物である藁を通して、かつての人々の暮らしを知る学習へと展開できる。郷土資料館には、このような学習に役立つ資料やノウハウがある。例えば、藁草履や草鞋、飯櫃入れなどの藁を素材とした道具や、縄ない機、藁打ちなど、藁を加工するための道具が収蔵されている。また、体験学習会として、正月飾り作り、藁草履作りなどを行っている。実技指導は人数や時間の制約もあるが、工夫によっては、稲の栽培からわらざうり作りへと続く体験型の学習も可能である。

これまでも、「昔の道具調べ」の学習では、郷土資料館が収集・保存する生活用具が活用されてきたが、学校の先生方と郷土資料館スタッフとの連携と工夫により、それら実物資料を用いた発展的な活用が可能となろう。

(2) 考古資料を用いた学習など

多摩川と浅川が合流し、台地が広がる日野市域では、古くから人々の暮らしが営まれ、中世には平山季重や山内経之など、武士の活躍が見られた。

文化スポーツ課では、埋蔵文化財調査の成果として、そうした先史時代から中世に至るまでの考古資料を数多く保管しており、それらを学校に持ち込んで行う出張授業“出前いっちょう”を行ってきた。縄文時代の土器や、中世の武士の時代に実際に使われていた遺物に触れることで、子どもたちに歴史をより身近なものとして感じてもらっている。

また、文化スポーツ課・郷土資料館では、学校へ出張授業として火起し器体験を行っている。多くは6年生の歴史の授業の中で行われるが、歴史学習としてだけではなく、人と火とのかかわりを通して生活の移り変わりを学ぶ機会などとしても活用できよう。

2. 情報の共有化による学習の展開

(1) 昭和恐慌という視点から

本事例集には、多摩川梨、蚕糸試験場、旭が丘の雑木林、多摩平団地などの事例が紹介されている。それぞれの学区域の特色をあらわす題材であるが、これらは日野市の近・現代の歴史の流れを意識しながら見つめ直すと、一連の流れの中で理解することができる。

日野市域は都下でも有数の米どころであったが、明治20年代から養蚕が盛んになり、稲作と養蚕が昭和初期までの主な産業であった。多摩川・浅川沿岸や日野台地では盛んに桑が栽培された。仲田の蚕糸試験場の立地は、そうした日野の地域性を象徴するものと言える。

しかし、昭和5年に始まったいわゆる昭和恐慌により、その様相は一変した。繭・生糸の価格暴落を受け、農家は養蚕に代わる副業へと転換した。その一つが梨の栽培であり、多摩川・浅川沿岸の桑畑は梨園へと変わっていった。また深刻な農村恐慌の影響で財政危機に陥った当時の日野町、七生村は、大工場の誘致によって苦境を打開した。この時誘致されたのが六桜社（現コニカミノルタ）、東京自動車工業（日野重工業、現日野自動車）、富士電機などいわゆる“日野五社”であったが、これらのうち4社は、桑畑が広がっていた日野台地に誘致された。昭和恐慌が桑畑が広がる日野市域の景観を一変させたのである。

戦後になると、東京周辺に職住一体となった衛星都市を建設して都心部に集中する人口・機能を分散しようとする国の計画「首都圏整備計画」が立てられ、戦前に大工場が誘致された日野地区はその第1号として開発されることになった。この計画と連動して、新たな居住の場として建設されたのが多摩平団地であり、新たな工業地区として整備されたのが旭が丘地区であった。

つまり、多摩川梨の栽培も、“日野五社”の誘致も、昭和恐慌を契機にて行われたものであり、その延長線上に多摩平団地の建設や旭が丘地区の開発があると理解できよう。

(2) 資料・情報の共有化

多摩川梨や蚕糸試験場、多摩平団地、旭が丘は、いずれも子どもたちにとって身近な題材だが、それらを相互に関連付けることによって、より多彩に展開させることができる。地域の題材を出発点に、日野市全体へ、さらには日本へ、世界へと視野を広げて行くことができる。また、それらの題材を窓口に、大きな歴史の流れを身近な問題として感じながら理解することも可能になる。

そのような学習の展開のために必要となるのが“資料・情報の共有化”である。他学年や他校の事例や題材をいかに子どもたちの学習に応用するかといった視点が必要であり、個々の先生、個々の学校が深めていった郷土学習の成果を相互に活かすような、学年や学校・地域を越えた連携も必要であろう。それと同時に、図書館、郷土資料館、文化スポーツ課などが持つ資料・情報を郷土学習に活用するための情報発信を行い、それら資料・情報を学校とを共有化（共用化）していくための仕組み・体制作りが今後の大きな課題となろう。

これまで図書館、郷土資料館、文化スポーツ課が蓄積してきた資料・情報は、様々な場面で郷土教育に活用することができる。これらの資料を・情報を活用しながら、学校の先生方との連携によって、新たな郷土教育のあり方を探っていきたいと願っている。

(2) 郷土資料館

「真慈悲寺」をめぐる

郷土資料館を事務局として市「幻の真慈悲寺調査事業推進プロジェクト」を立ち上げ、平成18年より、真慈悲寺の姿を追い求めるための調査を継続している。本稿では、そもそも「真慈悲寺」とは何か、これまでの調査成果の概要に簡単に触れる。残念ながら、授業でどのように取り上げるかまでの提案はここでは行なえないが、ご了承ください。

1. 真慈悲寺とは

「真慈悲寺（しんじひじ）」。「聞き慣れない寺の名だが、鎌倉時代を中心とする時期に「日本武州多西吉富」（武蔵国吉富郷）に存在した寺院である。日野市内百草の地に鎮座する百草八幡神社に伝存する高さ50cm弱の「銅造阿弥陀如来座像」（国指定重要文化財）の背中には、この世の安泰を祈願する銘文がきざまれており、その銘文の中にこの像が上述の「武州多西吉富真慈悲寺」に建長二（1250）年に奉納された旨、記されているのだ。

「真慈悲寺」の名はほかにも見え、鎌倉幕府の関与の元、編纂された歴史書「吾妻鏡（あづまかがみ）」には2度、記載されている。文治二（1186）年ご祈祷の霊場であるのにすっかり荒廃してしまい、源頼朝に復興を願ったという記事、及び建久三（1192）年に鎌倉で行われた後白河法皇の49日法要に、真慈悲寺の僧侶3人が参列したという記載である。

このような記述をもとに、源氏将軍と関係が深い大寺院である真慈悲寺が鎌倉時代に吉富郷の中に存在したことは疑いがたいが、吉富郷の中のどこにあったかについては、諸説があった。吉富郷とは今の多摩市関戸を中心とし、府中市から日野市域の百草あたりまでを含むエリアと考えられている。百草八幡神社も吉富郷内にあるため、その付近も当然候補地であるのだが、「阿弥陀如来座像」は別の地にあった真慈悲寺から、持ち込まれた可能性もあるため、銘文を持つ仏像の存在だけを根拠に断定することはできない。そのため、多摩市内にあったとする説も有力であった。

しかし、昭和から平成に変わる頃、京王百草園内で行われた発掘調査によって大量の瓦が出土したことから、今日では、真慈悲寺はほぼ日野市内百草の地にあったことが確実視されるに至った。出土した瓦は鎌倉時代のものとみられ、その時期に瓦が葺かれた建物はほぼ寺院に限られるからだ。江戸時代に出土したとされる経筒（平安末～鎌倉時代初めに仏教教典を納めた青銅製の筒）の出土地点候補地の位置や丘陵の地形などを考慮すると、この真慈悲寺は京王百草園あたりから今の大栗川あたりの丘陵先端部にいたるまでに様々な施設が点在していた大寺院であろうと考えられるに至った。そして、瓦が大量に出土した京王百草園の中に、真慈悲寺の中核的な建物があつたと想定できる。

2. 郷土資料館による調査

京王百草園を中心にその東方には現代の開発の手を免れた丘陵地の緑がまとまって残されており、文化遺産も多く守り伝えられてきた。真慈悲寺関連の遺産はその最たるものと考えられ、日野市郷土資料館は真慈悲寺の謎に迫り、この百草地帯の豊かな自然・文化環境の価値を確かめ、そのほかとは代え難い意義を明らかにして、後世に伝えていくことを狙いとして、冒頭で触れたとおり真慈悲寺調査事業プロジェクトを平成18年に立ち上げ、市民ボランティアとともに調査に取り組んできた。これまでに発掘調査や丘陵部の実地踏査、伝存する文化財の調査などを実施している。

発掘調査は、京王百草園内や、百草八幡神社境内、東電総合研修センター内でおこない、東電総合研修センター内では、僧侶の墓地と考えられる場や、それと関係すると思われる建物の柱穴多数を発見している。墓地と考

えられる場所からは昭和40年代に常滑焼（今の愛知県常滑市で焼かれたもの）の壺が出土しており、その年代は13世紀後半と考えられる。柱穴群については、年代を限定するに足る遺物が少なく、すべてを真慈悲寺関連の遺構だと断定はできないが、真慈悲寺に関わるものである可能性は大いにある。

今後も発掘調査を継続し、平成23年10月からは、これまでの調査成果をまとめた展示を新選組のふるさと歴史館で開催する予定である。

3. 真慈悲寺以後

ところで、真慈悲寺は鎌倉時代以後どうなってしまったのだろうか？これまでにわかっていることを簡単にまとめてみよう。鎌倉幕府滅亡後、廃れていったようだが、その境内にあった百草八幡神社は残ったと考えられ、江戸時代には（ひょっとすると戦国時代以前にもさかのぼるか？）松連寺が、今の京王百草園の建物のある場所にひらかれた。百草八幡神社は松連寺の管理するところとなった。「阿弥陀如来座像」やその他の文化財は江戸時代に土中から掘り出されたという伝承があり、その当否ははっきりしないが、いずれにせよ松連寺によって守り伝えられたようだ。明治維新後、寺院が次々とつぶされていく（いわゆる「廃仏毀釈」）中、松連寺もその例外ではなく廃寺となった。伝えられてきた文化財の一部は散逸したが、「阿弥陀如来座像」は百草八幡神社の氏子である地元の方々によって守り伝えられ、今は神社の境内の「奉安殿（ほうあんでん）」に安置されており、毎年9月の祭礼時に公開されている。ただし、正面からの拝観のみで、背中中の銘文を目にすることはできない。

今の京王百草園の建物の裏の丘陵頂部には、戦国期には城が築かれたという説が、地形観察から提起されている。城郭研究者によって「百草城」と名づけられているが、文献には一切記載がなく、江戸時代後期、松連寺の時代に地形改変を受けている可能性もあり、その評価は難しい。仮に戦国時代頃に何らかの施設が営まれたにもせよ、「城」という言葉によって一般にイメージされるものとは異なり、物見のためという性格が強いのではないと思われる。

4. 真慈悲寺の教材化をめぐって

以前は真慈悲寺が百草の地にあったのかなかったのか五分五分のような状況であったため、積極的に日野市内の学校において取り上げられることはほとんどなかったと思われる。今日、真慈悲寺が存在した可能性は大いに高まっており、百草地域の歴史は真慈悲寺抜きには語りえなくなったと思われる。

しかし、まだ真慈悲寺の全体像はつかめてはいない。古代寺院に見られるような定型的な伽藍配置は、中世の「山」の寺には認められないことから、それぞれの寺院について個別に明らかにしていくしかない。近年、「山岳寺院」というほど峻険な地にはないものの、平地の集落とはある程度隔絶された立地にある寺院を「山」の寺と捉えて、その研究が進みつつある。来年度には一定の成果がまとめられる予定であり、そうした研究の成果を踏まえて歴史的な評価を行ないたい。

とはいえ、真慈悲寺の中核と考えられる京王百草園からは、多摩川を望むことができ、今の落川地区には、古代中世の大集落「落川・一の宮遺跡」も展開している。鎌倉街道にも近い。また、鎌倉にとっては、多摩川の渡河点は北からの守りの最終防衛地点として軍事的に重要な位置にある。後白河法皇の法要には浅草寺からも3人の僧侶が出席しており、参加した僧侶の数が寺院の寺格を表すとすれば、真慈悲寺も浅草寺と同等であったと想定することもできる。

いずれにしても、真慈悲寺の調査は現在進行形であり、今後様々な事実が明らかになるとと思われる。そうした情報は郷土資料館から積極的に提供していく予定である。教材化に向けた取組みは喫緊の課題として、取り組んでいきたい。

(3) 中央図書館

図書館の活用と学校環境の整備

1. 図書館から学校へのサービス

図書館では子どもの読書活動を推進するために、学校との連携に努めています。学校へのサービスとしては、

- *授業で多くの図書を使って学習をするときに必要な図書を学校にお届けする学校搬送。
- *子どもたちに図書館で調べてくるように課題を出された時の調べ学習への対応。
- *読書指導や学習に必要な図書に関する相談の受付。
- *市内小学校各クラスへの図書館利用ガイダンスや本の紹介を行う学校訪問。
- *中学生以上の方の職場体験。

などがあげられます。

詳細は、日野市立図書館ホームページ (<https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/>)

[トップ>利用ガイド>市内『小・中学校』先生方のための市立図書館利用のご案内・児童サービスのご紹介とお願い]をご覧ください。専用FAX用紙もこちらからダウンロードできます。

2. 図書館と学校の連携

郷土教育の授業を行う際に、児童向けに書かれた資料(児童が自分で読める資料)はあまりありません。そこで、先生方は授業の準備をするときに「郷土日野」指導事例集を活用しながら、あるいは独自の教材を作成することになりますが、いずれにしても郷土資料が必要になります。

郷土教育を行うにあたり、郷土資料はなくてはならないものです。しかも、過去に出版されたものは入手困難なものも多くあります。日野市立図書館では地域と行政に係る資料を、市役所 1 階にある市政図書室を中心として収集・保存しています。中央図書館 2 階の市民資料室でも多くの資料を揃えておりますのでご活用ください。日野市について調べる際、日野市立図書館ホームページ (<https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/>) [トップ>データベース>日野市についてよくある質問 (レファレンス事例集)]も併せてご利用ください。どのような資料を閲覧できるか迷った時などはレファレンスサービスも行っております。

また、図書館では日野市に関する資料を収集し、永久保存しておりますので学校で刊行された周年記念誌などがありましたら、ぜひ図書館にご寄贈くださるようご協力をお願いします。

3. 学校図書室「郷土コーナー」整備

学校では、『日野市史』をどこに置いてありますか。

日野市の歴史を調べるための一番基本となる資料は『日野市史』です。児童・生徒や先生方の目に留まりやすいところに置いていただくことをおすすめします。例えば図書室に置いてみると、興味のある児童・生徒が手にとりやすくなります。

郷土コーナー整備の一例

a. すぐに整備できるもの

『日野市史』⇒日野市の歴史を調べる時にまずはこの資料を

『私たちの日野市の野鳥』

『日野の昆虫ガイドブック』

『新・日野の動物ガイドブック』

『新・日野の植物ガイドブック』

『日野市の植生』

⇒日野市内に生息する動植物の写真と解説
※市政図書室で販売しています。

「学校の周年記念誌」⇒地域の歴史や学校の歴史についてまとめられている

「周年記念で撮影された学校付近の航空写真」⇒学校周辺の変化が一目でわかる

「郷土かるた」「食育かるた」⇒かるた大会をしてみませんか？

「日野市の地図」⇒古くなっても保存しておく、新しい地図と比較できる

b. 資料を蓄積していくもの

「広報ひの」⇒できれば学区内の情報を切り抜いて保存

「郷土資料館や新選組のふるさと歴史館などで発行された特別展のリーフレット」

⇒写真や図版が豊富。一般的な図書では見ることのできない図版が掲載されていることも。『日野市史』を補う資料として保存しておくことをおすすめしたい。内容が充実しているうえ無料で入手可。

特に、学校で発行している周年記念誌は児童が直接活用できる郷土資料ですので、ぜひ図書室に置いていただきたいものです。

4. 学校と図書館・関係機関との連携

図書館では主に図書の資料を提供しておりますが、実物を見ることはできません。けれども、民具などの実物を見たり、学芸員の話をお聴いたりすることで新たな疑問が湧いたり理解が深まります。郷土資料館や文化スポーツ課では、資料を出張展示するデリバリー博物館や、出前授業、火起しなどの体験学習なども行いますので、現物に触れたり体験したりしながら、生じた疑問をその場で学芸員に質問することができます。

関係機関をうまく活用していただくと、児童・生徒の郷土や地域への関心がより強くもたれるようになります。そして、現物にふれながら生じた疑問をひもとくため、図書館に資料を探しに来ていただきたいです。

（４）日野図書館「ひのっ子日野宿発見」・中央公民館「市民大学講座 日野学」

その他の関係機関との連携では、日野図書館の日野宿発見隊事業に参加した。今年度の主要事業は、絵本「ひのっ子日野宿発見」の刊行である。主に、日野第一小学校、東光寺小学校、仲田小学校の児童・教員・PTA と日野図書館を中心とした地域住民と共に、絵本「ひのっ子日野宿発見」の刊行事業に参加した。刊行報告会が平成２３年２月４日、生活保健センターで行われた。会の最後に、教育センターの小杉が、「郷土学習への活用」と題して、この絵本の活用方法を語った。以下、当日の講話を記載する。

皆様こんばんは。今日は、本当にうれしいですね。日野宿子ども発見隊制作の絵本「ひのっ子日野宿発見」が完成しました。そして、今、絵本の刊行報告会が開かれています。この絵本を手に来ること、うれしいです。絵がきれいでステキです。文がとっても分かりやすいです。表紙を見ると、多摩川にクジラが泳いでいます。中洲の草むらにゾウが隠れています。キツネがボートに乗って川を渡っています。「えっ、日野にクジラやゾウがいたの。どうしてキツネが？」もう、ワクワク、ドキドキ、早く次のページを開きたくなります。学校・家庭・市民が待ち望んでいた日野宿の絵本が、１年かけて完成しました。

たった今、小学生の代表が上手に朗読してくれました。感想を聞いてみたいと思います。日野一小的代表「A」さん、どうですか？「今まで、知っていたこと、知らなかったことなどが１冊の絵本にまとまって本当によかったです。日野のこと、もっと知りたくなりました。」仲田小の代表「B」君、どうですか？「社会科の授業でトンガラシ地蔵を見に行き、日野って面白いなあと思いました。この絵本ができて、もっと見に行きたいと思います。」ありがとうございます。絵本ができて、本当によかったですね。

今日、参加の小学生のみなさん。みなさんの学校で勉強していることも出てきましたね。日野一小では、新選組のご子孫から新選組のことを聞いたり、天然理心流の剣道を見せてもらったりします。正門前の日野用水には、アユが群れをなしてさかのぼっていきます。魚とりも大好きですね。東光寺小では、よそう森公園の田んぼでお米を作っています。案山子もつくっていますね。もちつきもたのしいですね。東光寺小は台風が来ても多摩川の土手がくずれませんね。いつもウナギが守ってくれます。だから、おいしいウナギをがまんしているのですね。仲田小では、仲田の森の探検隊がありますね。桑の実を食べたり、イチョウの銀杏を拾ったりします。キャンプやターザンごっこもできます。昔、日野はお米と桑（カイコ）の町だったのですね。日野って、本当に面白い。知れば知るほど面白いですね。

この絵本を作った「日野宿子ども発見隊」は、平成１８年の夏、だれでも参加できる「日野宿発見隊」と共にスタートしました。隊長は、日野ふれあい商店会会長の「滝本光男」さんです。発見隊は、子どもたちに、生まれ育った「ふるさと日野、日野宿」のことを、もっと知って欲しい、子どもたちの素朴な疑問に応えたいという願いから始まりました。日野図書館が中心となり、地域の日野第一小学校、仲田小学校、東光寺小学校の子ども、PTA、商店会はじめ、日野宿を愛する地域住民が一緒になりスタートしました。地域の埋もれたお宝を発見し、地域に生かしていきました。子どもたちに地域のよさを伝えていきました。町を歩いて昔発見・不思議発見の発見隊、日野用水での魚とり、大昌寺での子どもまつり、日野宿交流館での夕涼み会、日野宿「屋号」復活、大きな反響があった「まちかど写真館」です。この活動が、テレビ朝日の「ちい散歩」でも取り上げられ、大きな反響がありました。

この絵本は、子ども発見隊が、昨年の夏と秋に、日野宿を歩き、新たな発見と観察をし、子どもの心に残ったところを取り上げました。原画は「広田美穂」さんが描き、文は「おおぎやなぎちか」さんが書き、発見隊で検討し、ようやく完成したものです。

小学校の授業は、できる限り地域の歴史や自然、地域の文化財、産業、人々を教材として取り上げていきます。なぜなら実物・本物を見たり、地域で様々な体験をすることは、感動がありよくわかるからです。そして、子どもはもっと見たい、聞きたい、調べたいと、意欲をもって学びます。よくわかる楽しい授業となります。社会科・理科・総合的な学習の時間だけではなく、国語で昔話を取り上げたり、音楽で伝統芸能を取り入れたりすることができます。郷土の伝統や文化を大切に、郷土を愛する心を育てる、道徳の教材ともなります。中学校でも同じです。日野第一中学校では、一貫として道徳の授業で「郷土愛」の育成に取り組んでいます。

子どもは、日野を「ふるさと」と感じ、日野が大好きになります。子どもは、ふるさと日野を愛するひのっ子、将来の日野を背負って立つ日野人へと成長していきます。この伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度の育成は、教育基本法・学習指導要領にあるように、日本の教育の目標となっています。日野市の教育の最重点課題の一つともなっています。

この絵本を読んで、面白い、本当かな、どうして？と思ったら、この絵本を手、町へ出てください。日野宿の文化に直接ふれてください。まず、学校の先生から地域を歩いてください。先生が感じた日野のよさを、子どもたちに伝えてください。次に、この絵本を教材にして、子どもと共に地域へ出てください。子どもたちが、もっと知りたい、もっと調べたいと、意欲をもって追究する授業が創造できると思います。

家庭でも同じように、家族で読んで、家族で歩いて、家族で調べてください。夏休みの自由研究に家族で取り組んでもいいですね。「日野の交通」「日野用水と田んぼ」「日野宿本陣と新選組」「日野の昔話と伝説」「八坂のお祭りと日野囃子」等のテーマを決めて調べても面白いです。みんなで一緒に取り組むと、クラスも学校も家庭も楽しくなります。みんなで一緒に学び合うと、みんな仲良しになり、いじめなんかありません。この絵本は、日野市のみんなを仲良しにし、日野市を楽しくする宝物です。

疑問があったら日野図書館に来てください。さらに、先生・保護者のために、「ひのっ子日野宿発見」のホームページが開かれています。先ほど上映されましたが、詳しい解説や写真のついています。是非、活用してください。日野市はコンピュータを使ったICT教育日本一の町です。図書館も日本一です。この絵本を活用し、ふるさと日野を歩き、図書館で調べ、コンピュータを活用して、よりよい学校教育、家庭教育が、創造出来るのではないのでしょうか。

今年の市政のテーマは「自治に親しみ、自治を楽しむ」です。私達は、この絵本を活用して「日野に親しみ、日野を楽しむ」です。日野って本当に面白いですね。皆さん日野を楽しみましょう。

日野市立教育センターの郷土教育担当者として、日野宿発見隊の一員としてお話をさせていただきました。絵本の活用、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

公民館との連携では、中央公民館主催「日野市民大学一日野学講座」全4回を担当した。郷土教育推進研究委員会が開発した教材をもとに「日野用水の歴史と役割」「伝説のふるさと日野」「農林省蚕糸試験場と仲田の森」「日野五社と町の発展」等を紹介し、最終日には日野宿を中心に現地探訪を行った。

4 郷土教育推進のための普及・啓発

(1) 郷土教育を実践する指導者の育成

① フィールドワーク

郷土教育を推進するためには、指導者自身が地域の歴史や自然、文化、人材などに触れ、知識だけではなく、実感を通して地域への愛着や誇りをもつ必要がある。その土台に立って、具体的な教材化を図り、指導を通して子どもたちの興味・関心は高まっていく。指導者自身が「このことを伝えたい」「気づかせたい」という郷土への愛着と誇りをもって指導に当たることによって、子どもたちの郷土愛は育っていくであろう。

「より深く・より広く」日野市や学区について知り、具体的な実践が図れる指導者の育成を目指して、今年度は「百草地区」のフィールドワークを実施した。これは、日野市教委と郷土教育推進委員会の共同事業として、本委員会のメンバーが講師となって実施したものである。フィールドワークを通して地域素材をどのように教材化するか、どのように提示し実践するかを考えた。



地域の概要

百草村や三沢村、落川村は丘陵の下方が畑で、程久保川や多摩川沿いの低地が田であった。水田耕作と養蚕によって現金収入を得て、丘陵の雑木林から燃料の薪を取ったり、炭を焼いたり、落ち葉で堆肥を作るなど生活に必要なものを入手していた。しかし、現在では開発が進み、浮島のように百草園周辺に緑を残すだけになってしまった。



百草図書館

当日は、百草図書館の廊下に、“ひの「いま」「むかし」”と題して、市民から募集した百草・倉沢地区の写真が多数展示してあり、フィールドワークの導入として活用させて頂いた。写真は視覚に訴えわかりやすいので、昔のくらしを子どもたちに伝えるのに大変適した教材になる。



東光寺跡

百草園の下には、東光寺というお寺があったが、土砂崩れで移転した。この寺の山号は砂土山といったが、多摩丘陵はもともと海の底で、少し掘ると平山砂層という砂の層が出てくる。この地形の特色を生かして、山号が名づけられた。現在のお堂にある地蔵は「安産地蔵」として地元では親しまれている。また、道しるべを兼ねた馬頭観音文字塔が残っている。



百草園

百草園には松連寺という寺があったが、廃仏毀釈で廃寺になり、明治18年百草出身で横浜の生糸商人だった青木角蔵(副読本『わたしたちの日野』に掲載)が買い取った。その後、昭和32年に京王電鉄に転売され、今に至っている。はっきりしないが、ここには鎌倉幕府と関係の深い真慈悲寺があったようである。



発掘現場と真慈悲寺調査センター

真慈悲寺と松連寺の関係は明らかではない。幻といわれた真慈悲寺の謎に迫ろうと市民ボランティアも参加して、発掘調査などが実施されている。トロイ遺跡を掘り当てた「シュリーマンの日野版」とも言えそうだが、当日は発掘現場を見たり、調査の拠点になっているセンターで出土した瓦を見たり、今までの研究成果の説明を受けた。



百草八幡神社

ここは、源氏と関係の深い神社と言われ、国指定重要文化財の阿弥陀如来像が安置されている。その背中には「真慈悲寺」と刻まれていることから、この寺との関係が推測されている。周辺には市の指定天然記念物になっているスダジイの群生があり、古いものは樹齢300～400年と推定されている。



百草観音堂と万蔵院台の庚申塔

百草観音堂は、武相48観音の第9番札所、堂内には日野市指定有形文化財の聖観音菩薩像(木造)などが納められている。この地を治めた旗本的小林権太夫の建てたもので、民間で行われていた庚申塔も古墳の近くに建てている。これは、昨年の市の文化財に指定され、下の方は「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿が彫られている。庚申塔



などの石造物はこの近辺でよく見られ、当時の人々がどのような願いを持っていたのかを知る、よい教材になる。



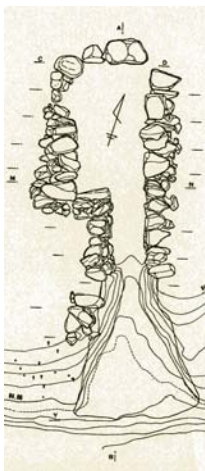
由木農園

昔、万蔵院という山伏の修験場があり、医療活動も行っていた。現在は、日野市の学校給食に使われている卵やジャムの原料となるりんごなどを栽培している。養鶏の特徴は、遺伝子組み換えをしていない餌や着色剤の入らない餌を使っていることで、尿の臭い消しとして下にコーヒー豆を置き、最終的には肥料として使うなど環境に配慮している。



雑木林と市民ボランティア

倉沢の斜面には、多摩丘陵の緑の名残りともいえる約4haの貴重な雑木林が残っている。所有者となった日野市とパートナーシップ協定を結んだ市民ボランティアが中心になって下草刈りや落ち葉掃きなどの手入れを行い、また市民農園を運営するとともに人と自然の共生を目指して里山の保全に努力している。



古墳

万蔵院台地の縁には、6世紀から7世紀前半にかけての古墳が3基あり、現在は2基の石積みが残っている。また、古墳からは、金環や鉄族、直刀、須恵器高杯などが出土している。この古墳は大栗川の対岸、多摩市の稲荷塚古墳などに関係があると言われ、南の斜面には多数の横穴墓が発見されている。

七生緑小学区の石造物

つぐみは地元ではチョウマンと呼ばれ、かつては蛋白源として霞み網で捕まえて食べていた。百草園の前には、これを供養して昭和28年建立の「野鳥供養碑」がある。また、新堂谷戸の上の台には安永6(1777)年の六地藏と万延2(1861)年の道祖神が祀られている。六地藏は色が刻字された珍しいもので、庚申塔も並んでいる。さらに、百草八幡神社には、松連寺の歴史について記した「松連禅寺之碑」や当時の文化人によって作られた「松連寺詩碑」、きつねに乗った「秋葉権現像」などがある。

由木農場聞き取り



玉泉院(後に万蔵院)慶祐が百草に定住したのは天正年間(1573～92)で、以前は母屋の西に土塁があり、その辺に山伏の修験場の万蔵院(聖護院系の本山派)があったようだ。2, 3 年前から、卵は給食用として日野市内の小・中学校 25 校(全校)へ納めている。

◎養 鶏

約 50 年前には養豚から養鶏に切り替えた。特徴は餌へのこだわりで、①遺伝子の組み換えをしていないトウモロコシなど安全な餌を使っている。餌は自家配給で、出来合いの餌は買わない。原料の大豆粕(アメリカやカナダは遺伝子を組み換えているのでインド産を使用)、とうもろこし、魚粉(魚の腸“はらわた”で静岡県の日詰工場の残りを使用)、広島や岡山などの牡蠣殻、米屋から糠を集めている。つまり、これらの原料を別々にサイロに入れ、自分で混ぜてパイプで鶏舎に送る。自動餌やり機は、鶏舎の奥に行く時に餌が出て、戻る時は出ない。餌は 6 時、11 時、2 時の 3 回で、1 日 1 羽 120～130 g 与える。1 ケージには 2 羽入っている。また、②餌には黄身の着色剤を使わない。着色料は 8～15 番あり、例えば「13 番の色を餌 1t に 1kg 入れて」と依頼して着色する。しかし、ふつう黄身の色は、餌のとうもろこしと牧草のアルファで決まる。

鶏の羽の色と卵の殻の色は同じで、茶色の羽の鶏は赤玉、白い羽の鶏は白玉を産む。ここにいる鶏は赤と白の交配でピンク(桜卵)、岐阜県の後藤氏が開発した純日本系になる。日本系は、以前は 5, 6 種類いたが、最近 10～15 年位は外国系に押され 1 種類しかいなくなった。外国系は餌が少なく卵をたくさん産むが、卵の質が違う。外国系は殻が柔らかく、卵が水っぽい。しかし、ここの卵の殻は堅い。分業が進み孵化所、ひなを育てる所、排卵所が別になっている。ここの鶏は岐阜で生まれ、埼玉で 120 日育てたもので 2, 3 週間後に卵を産み始める。3,000 羽いて 8～9 割の鶏が卵を産む。卵の大きさは年齢に関係し、初めは S で徐々に LL へと大きくなる。卵を仕分けるのが楽なので、年齢別に飼っている。餌代が高いので、生み始めてから 1 年 4 ヶ月で廃棄にする。廃鶏は、ひき肉やガラ、カップヌードルなどに使用する。卵は 11 時頃には 7, 8 割生むので 1 時間かけて集め、午後はそれを仕分ける。卵の出荷先は生協、老人ホーム、スーパーマーケット、学校、即売所になる。かつては中学生の集卵作業など実習を受け入れたが、鳥インフルエンザで今は鶏舎は立ち入り禁止にしている。また、尿はアンモニアが含まれ臭いので、鶏糞の下にコーヒー滓や賞味期限の切れたコーヒーなどを買ってきて約 5 cm 敷き、最終的には乾燥、発酵させて肥料として使う。これを始めたのは 5, 6 年前からで、民家が増えたので周辺に配慮している。夏は暑いので樋にホースで水を流している。鶏の体温は 42 度と高いので、暑さに弱く寒さに強い。風通しをよくするため、雀は入るがカラスは入らない大きめの網にしている。しかし、先日の朝 4 時頃に狸が 3 匹入り鶏を食べられ困っている。

◎りんご

20 年前、市長から「市民が喜ぶような果物を作ってほしい」と話があり、八王子の恩方に見学に行き、日野でも可能だと考えて市の補助で始めた。りんごの収穫は 9 月～11 月で紅玉(9 月 15 日～20 日)、新世界、富士(11 月)、群馬名月、陽光などを作っている。そのうち、紅玉、陽光、富士を給食に出している。今はこの 4 種類に特化し、接ぎ木して育てている。寒い地方のジョナゴールド、北斗などは気温が高すぎて赤くならないうちに、ふける(柔らかくなり売り物にならない)。7 月は摘果をして袋がけをするが、富士は色をつけるために二重の袋(1 袋 5 円)で遮光するので手間がかかる。秋に 1～3 週間外側の袋をはずし、中の黒い袋だけにして陽に当てて慣らす。りんごの色と熟していることとは関係がなく、昼と夜の温度差で色がつく。

② 午後の研修会



午後の研修は、七生緑小学校のパソコン室において、フィールドワークをした百草・倉沢地区の理解をさらに深めるとともに、授業での活用の方法について学ぶ以下の講義・演習を実施した。

- フィールドワークの復習と補足
- 蚕糸試験場跡を活用したカイコの飼育体験
- 出前いっちょうを活用した縄文時代の学習
- 日野の昔話を活用した授業展開



郷土教育推進研究員会の課題の一つに、図書館・博物館との連携がある。そこで、中央図書館司書から図書館の活用方法について紹介した。博物館・図書館を有効に活用することにより、迅速に資料が収集でき、教材研究の時間を短縮することができる。加えて、博物館・図書館と一緒に授業を作ることができると付け加えた。



続いて、文化スポーツ課係長から児童・生徒が調べ学習をする際、漠然と「新選組について知りたい。」と尋ねるのではなく、「新選組が日野宿本陣をどのように使っていたかを知りたい。」と具体的に質問すると資料を用意することができるという話をした。また、中央本線と日野煉瓦との関連を例に「事象はつながっている」と、物事を調べる楽しさや、発見する楽しさについて説明した。

午後の研修のまとめとして、教育センター所員から百草・倉沢地区の新旧の地形図を比べて、訪問した場所をたどり、地域の移り変わりを考えた。子供たちに地形図を比較させ、地域の変化に気づかせたり疑問を持たせたりして、学習課題を設定する方法について研修した。

③ 参加者からの感想から

「書籍で調べるよりも、フィールドワークをすることにより興味を持ちやすいことが分かった。」「3年生の市内めぐりで訪問する場所にしたい。」という感想から、現場を訪ねることが大切であることについて十分理解する機会になったと考えている。また、図書館や博物館を資料収集の場所として利用することについても伝えることができた。

さらに、「写真を基に授業づくりや、学校に教材として活用できる資料づくりをしたい。」「写真やプレゼンテーションの資料を分けてほしい。」という意見から過去の指導資料や写真データ等を教育センターのウェブサイトからダウンロードをすることができるように整備することにした。

（２）郷土教育は校長講話から

郷土教育の普及・啓発のためには、各校長の理解とリーダーシップが必要である。校長の積極的な姿勢が教師を動かし、児童・生徒を動かすのである。校長が直接児童・生徒、教師に訴える校長講話は極めて重要である。全国に「心に残る講話術」で地域の伝統・文化の尊重を訴え続ける日野市立東光寺小学校校長垣内成剛氏からの寄稿を掲載する。さらに市内４校の校長先生から寄せられた講話を掲載する。

① 伝統・文化に関係する講話・児童朝会の話「四谷のウナギ」

今、国際社会に生きる日本人に求められることは、自分が育った地域の良さを自分の言葉で語れる日本人にまで育成することが求められている。そのためには、自分の育った地域（東光寺・日野市・東京都・日本）から学び、地域の伝統や文化の良さを知り、地域の人とかかわり、地域を愛する（郷土愛のある）児童の育成が大切である。

また、私たちの育った地域は、二千年以上の伝統や文化が受け継がれ、今も尚、受け継いだ生活の知恵や歴史・文化の財産が息づいている。私たちは、次の世代を生きる児童に地域の良さに気づかせ、我々が祖先から受け継いだ生活の知恵や歴史・文化の財産を引き継がせる役割がある。ぜひ、管理職の先生が、先頭に立って、先生方に進んで地域のことを調べ、学び、地域の良さに気づかせてほしい。その結果、郷土愛溢れる児童の育成に繋がり、さらに自分の育った地域の良さを自分の言葉で語れる児童に育成できると確信する。

「四谷のウナギ」

日野市に四谷と言われる地域があります。５００年ほど前は、この地域のことを「上屋敷」と呼んでいました。この土地に山梨から、天野・加藤・小島・宮原の四つの家が、移り住みました。初めは、四つの家で、「四家（よつや）」と呼びました。後に四つの谷「四谷（よつや）」となったと言われています。

この四谷の人々が、今でもウナギを食べないわけがあります。

そのわけは、昔々、多摩川に大水が出て氾濫し、多摩川に接している四谷村の堤防が危なくなりました。四谷村の人々は、堤防に土のうを積んで、一晩中堤防が壊されないように見張っていました。しかし、多摩川の水かさがますます増えて、多摩川の堤防が壊されそうになってきました。そして、ついに激しい川の流れて、堤防の土手に穴があき、水が四谷村の方に流れ始めました。四谷村の人々は、必死に土のうを積んで、土手の穴を埋め水の流れを防ごうとしました。しかし、なかなか穴は、埋まりません。

その時、どこからともなく、ウナギの大群が泳ぎ着いて、その穴へ入り込んで、多摩川の水かさが減るまで、土手の穴をふさぎ、四谷村を洪水から守ってくれました。

四谷村の人々は、これこそ部落の鎮守様（日野宮神社・日野の名前の起こりになった神社）の悟空蔵菩薩が、お使いのウナギに命じて、四谷村の人々を洪水から助けてくれたのだと思いました。そのわけは、いつも村人が拝んでいる悟空蔵菩薩の衣の裾が、ウナギの姿そっくりでした。そこで、四谷村の人々は、「ウナギは、神様のお使いである。」と確信しました。それ以来、四谷村の人々はウナギを食べなくなったそうです。

（東光寺小学校 垣内成剛）

② 日野の特産物・東光寺だいこん

[たくあん漬け]

先週の朝会でも紹介しましたが、20日から大寒に入り一年のうちでも最も寒い季節に入りました。でも、この寒さももう一息だと思えます。2月4日には暦の上での春、「立春」がやってきます。3学期に入りこの寒さに負けないように「縄跳び」も始まりました。寒いのと雨が降らないので空気が乾燥しているので、風邪が流行し始めているようですね。本当の春がやってくるまで、うがいや手洗いをしっかりしてインフルエンザにかからないようにしてくださいね。

さて、先週は学校公開日がありましたが、特別支援学級のお友達は育てただいこんでたくあん漬けを作り、正門と南門のところでお父さんやお母さん、ご近所の人たちに売っていました。今日は漬物の話をしようと思います。人は、大昔から海水から取れる塩を使うと食べ物が腐らないでとっておけるということを知っていて、この塩を使い食べものを蓄えていました。そして、今から1200年ほど前になると、ナスやキュウリ、ウリ等の野菜を使った漬物が、ご飯のおかずに使われたり、お茶を飲む時一緒に食べられたりするようになりました。

「たくあん漬け」は今から400年程昔、沢庵というお坊さんが漬けたというのが始まりだと言われています。沢庵の建てた東海寺の漬物はたいへん美味しく、この寺を訪れた徳川家光が「名前がないのなら沢庵漬けと呼びなさい。」と言ったのが始まりだと言われています。だいこんの漬物は1200年位前からあったようです。だいこんは歯ごたえがあり、たくさん噛んで食べるので、脳の血流を良くし頭が良くなると言われています。また、漬物には「乳酸菌」が多く含まれているので、お腹の調子を整え食欲が出るようにもなります。

特別支援学級のお友達が育てただいこんは「東光寺だいこん」と言い、今から120年ほど前から作られるようになりました。日野の土地はだいこん作りに適していたので、たくさん作られるようになったと言われています。今は、住宅がたくさんできて畑が少なくなっていますが、昔は大切な副食として八王子等に出荷されていました。昔の人たちの生活に興味を持ち、実際に種をまいて作物を収穫し、これを漬物にしたのはとても良い勉強ですね。先生は、直接育てている様子や収穫のことは分からないのですが、たくあんを売り易い大きさに切り袋詰めしたり、シールを貼っているところは見せてもらいました。

クラスの皆も先生も一生懸命仕事をしていて良いなあと思いました。こうして一生懸命準備したからでしょう、お客さんがたくさん来てあっという間に「たくあん」は売れてしまいました。先生は特別支援学級の皆さんの頑張りに力をもらい勇気づけられました。どんなことでもいいですから、どのクラスの人たちも自分のできることに一生懸命取り組み、皆で盛り上げる頑張る学校にしてくれるといいなあと思います。

自分たちの生活している土地の作物を食べることは、「地産地消」と言って給食でも大切にされています。日野市ではまだ農業が盛んなので、日野市産の作物をたくさん食べることができます。

「東光寺だいこん」はこの地産地消の代表として特に有名なものの一つです。日野市ではこれ以外にも、「だいず」や「ブルーベリー」等の生産が盛んです。私たちも自分たちの住んでいる土地の作物を積極的に食べるように心がけて行くと良いですね。

(日野第一小学校 中島和夫)

③ 三小ができたころ

今週の土曜日は、開校60周年記念式典があります。三小の60歳の誕生日を多くのお客様がお祝いしてくださる日です。皆さんは、全員登校しますが、記念式典には、5・6年生が代表で出席して言葉や歌を披露します。皆さんは、お祝いの品をいただいて下校します。楽しみにしていてください。

さて、今日は、三小ができたころの話をします。

日野台には大昔から人が住んでいましたが、この辺りは、雑木林や桑畑、ススキの原っぱなどが広がるさびしい所でした。

ところが、昭和12年に、日野ディーゼルという会社がありました。今の「日野自動車」です。この辺は、地下に水がたくさん流れていて、井戸を掘るとよい水がたくさんくめたのです。工場には水が必要です。そうした理由もあって、「日野ディーゼル」などの工場が次々に建ちました。

工場が建つと、そこで働く人の家ができます。原っぱだった場所につぎつぎに家が建ち、人の数も増えてきました。もちろん子供も増えました。

その子供達は小学生になると、日野駅の向こう側の、日野小学校（日野第一小学校）に通いました。坂を下って30分以上かかります。帰りは坂道を登りますからもっと時間がかかったし、道路も今のように舗装されて歩きやすくなっていませんから大変でした。ランドセルをしょってふうふう言って帰ってくる子供達を見て、大人の人達は、坂の上の日野台に学校を創ろうと考えました。どこがいいかと探すと、昭和20年まで、高射砲の陣地として使っていた場所がありました。そこが、今の三小の場所です。

今、プールのある場所の後ろ側は崖になっていますね。そこからは、日野や立川がよく見えます。そこで、戦争をしているころ、敵の飛行機を撃ち落とすために、高射砲という爆弾を発射させる場所だったのです。高射砲の陣地の兵隊さんが生活していた建物も残っていました。その建物を校舎に使って学校が始まります。

昭和23年、日野小学校の分校としてスタートしました。しかし、そのころの校舎は木でできた1階建てで、部屋の数も少しでした。全員が一緒に勉強できないので、二部授業と言って、早く来る子供と、遅く来る子供に分けて同じ教室を使って授業をしていました。

昭和25年、2階建ての校舎が完成して、日野台小学校として開校しました。

これが、最初のころの校舎の写真です。校舎の場所は、今の校庭とは反対の南側（鉄棒の方）にありました。その後、子供の数が増えて、1000人以上になったこともあります。校舎も今の場所に移ってどんどん大きくなりました。あまり、子供が多くなったので、東光寺小や五小に分かれました。

60年間の写真が職員玄関や校長室前があるので、見ておいてください。

今日は、三小ができたころの話をしました。

（日野第三小学校 京極澄子）

④ つばめの恩返し

校庭でツバメを見かけました。今日は、日野市に伝わるツバメの話をします。

農家の軒先に、ツバメが巣を作りました。ある日、そのツバメの巣を、2メートル以上もある大きな青大将という蛇がねらっていました。巣には、卵からかえったばかりのひなが何匹かいて、えさをほしがってピーピー鳴いていました。親ツバメがえさをくわえて戻ってきて蛇を見つけましたがどうすることもできません。親ツバメは狂ったようにピーピーピーピーと鳴きました。けれど、蛇は、どんどん巣に近づいてきます。親ツバメはすどくピーピーピーピーと何度も鳴きました。その時、農家のおばあさんが、ツバメの鳴き声があまり変なので、なんだろうと外に出てきました。そして、蛇に気がつきました。おばあさんはそばにあった竹の棒で、蛇をたたいてやっつけました。ツバメの親子は危ないところでおばあさんに命を助けられました。

次の年の春先、裏山にたくさんのきのこが出ました。おばあさんはキノコを採ってきて、大きなべでキノコ汁を作っていました。いい香りがして、みんながそろそろ食べられそうだったとき、1匹のツバメが、土間に入ってきて、すどくピーピー鳴きました。何だろと思いしましたが、放っておきました。すると、何度も何度も、ピーピー鳴きながら、はいってきて、今度は鍋にふんを落としました。あわててふんをすくってすてました。すると、最後に、そのツバメは、ぐつぐつ煮えている鍋の中にサーと降りてきて飛び込んでしまいました。

もちろん、つばめは死んでしまいました。おばあさんはびっくりして、キノコ汁を食べるのはやめました。

あとで分かったのですが、裏山にはえたキノコの中に、毒キノコがあったそうです。

おばあさんの命を、ツバメは自分の命を懸けて救ったのでした。

不思議なお話ですが、これは、先生が、日野に住む方からお聞きしたお話です。

(日野第三小学校 京極澄子)

⑤ ちょうまんぴら公園？！

七生緑小学校の周辺には、たくさんの公園があります。公園の名前には、この地域の昔からの地名がそのまま付けられているものや地域の自然を表すものもあり、調べてみるととても興味深い意味があつたりします。

例えば、「三沢」という地名は、三つの沢『湯沢』『中沢』『小沢』から付いたとされています。また、「百草」という地名は、『茂草』からついたのではという説もあります。今回は、学校周辺の主ないくつかの公園に絞って、その名前の由来を調べてみました。

① ちょうまんぴら公園

寒い北国を避けて日本に渡ってくる「つぐみ」という鳥がいます。秋の終わりに雑木林に住み、冬を過ごすそうです。その鳥のことをこの周辺に住む人たちは「ちょうまん」と呼んでおり、「ちょうまん」が住み着いた原っぱ（たいら・平）なので、『ちょうまんぴら』という名前になったということです。



② 雨乞公園

公園の下には深い谷があり、その奥から湧き出る地下水はどんな年でも涸れることがなかったそうです。地元の倉沢の人たちは、日照りが続いて田んぼの水に困ったときなどに、この地下水を神社にお供えして、雨乞いの祈願をしたところから付いた名前だそうです。

③ 枅井西公園

公園の近くに椎や檜、檜などの大木が茂っており、その根元から自然の湧き水が出ていたそうです。その湧き水のことを「ましい」と呼び、今でも百草八幡神社の前から倉沢方面に下りる道のことを「ましい坂」と呼んでいます。

④ 滝ノ上公園

周辺に長さ3～4メートルの滝が流れていたことからこの名前が付いたそうです。滝の近くには、以前「お滝さま」と呼ばれた小祠（ほくら）があり、今でも崖のような斜面の中の公園は、地下水が流れ出そうな神秘的な雰囲気があります。

⑤ 金子屋敷公園

戦国時代に近在の農具を作成・補修していた金子という名前の野鍛冶が住んでいたお屋敷があつたそうです。

⑥ 下郷公園

「三沢」の名前の由来となった三つの沢が流れていたその流域のことを、湯沢は上郷、中沢は中郷、小沢は下郷と呼んでいたそうです。その昔の地名をそのまま付けたようです。下郷公園のある急な坂を上がっていった脇に、「小沢緑地」があります。この「小沢」も昔の地名の名前が残されていることになります。



⑦ 三角点公園

公園の近くには、かつて周辺で最も高いと言われた丘があり、明治39年の陸地測量部が測量のために三角座標を設置した場所という意味があるそうです。

学校周辺には昔から山や谷が多く、川または湧き水が流れていたということがよくわかりました。今は、坂の多い住宅地というイメージですが、自然に囲まれていることは変わりません。

(七生緑小学校 内田清)

Ⅲ 研究のまとめ ～成果と課題～

研究主題「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」のもと、1年間、研究と実践に努めてきた。大きな成果は、郷土教材の教材化を通して、指導者である教師が、郷土「日野」の特色やよさを知り、この教材で授業がしたい、子どもたちに郷土の特色やよさを伝えたいと、意識が高まったことである。教師の意識の高まりは、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成につながると考える。

10月の中間報告会、2月の発表会と2回の研究発表の機会があったが、市長をはじめ教育センター運営審議委員・教育委員会・校長会の各先生方から、「授業研究の大切さを感じた」「日本の授業のレベルの高さを感じた」「ふるさとの大切さを改めて感じた」「授業に学ぶ喜びと出会いの感動があった」「伝えたい、知らせたい、継承したいという人としての願いが伝わってきた」と高く評価していただいた。また、「6じゃなくて9年間を見越しての研究にしてほしい」という要望もあった。本委員会を小・中連携した組織に戻すことも課題である。

私たちの使命は、この成果を本市の小・中学校へ普及・啓発させることである。今年度はこの普及・啓発を大きな目標として、3つの重点課題を設定し、教材開発・授業実践に励んできた。

(1) 学習指導法の研究、指導者の育成

- ・各委員が実践した事例9件、新たに開発した郷土教材1件を「郷土日野」指導事例 第6集に掲載することができた。
- ・夏季休業中に百草・倉沢地区のフィールドワークを実施し、その教材化の演習と実践事例発表の研修会をもつことができた。
- ・研修したことを直ちに、郷土教材マップにまとめたり、2学期の社会科見学に取り入れたりした学校（指導者）が数校あった。
- ・今後、未開発地域でのフィールドワークを実施し、新たな郷土教材の開発を行う。
- ・見学・調査・まとめ・発表等の学習過程で、グループ活動等の「学習形態」を工夫する。
- ・新学習指導要領で最重要視されている「言語活動」をさらに取り入れる。
- ・多様な郷土教材を教材化するため、教科間の連携をさらに広め、深める。

(2) 郷土資料館・図書館等関係機関との連携

- ・多種・多様な指導資料や情報の提供を受け、また、専門的な見地からの指導・助言、があり、効果的・効率的に郷土教材を活用した授業が実践できた。
- ・各機関から、市刊行物、広報、周年記念誌、航空写真等の校内資料の散逸が指摘された。郷土資料の保存と活用のため、学校内の郷土資料室等の環境整備が必要である。
- ・郷土資料館や図書館との協働授業をさらに推進したい。

(3) 郷土教材の電子データ化

- ・「郷土日野」指導事例集、さらに、指導事例集の写真図版を日野市立教育センターのホームページに掲載することができた。
- ・電子データ化された教材を使って授業実践を行い、さらに、普及・啓発に努める。
- ・各学校でも、郷土資料の保存と活用のため、学習指導計画や郷土資料、ワークシートや児童作品の電子データ化の推進が必要である。

郷土教育推進研究委員

No.	役 職	所 属	職	氏 名
1	委員長	日野第一小学校	校 長	中 島 和 夫
2	副委員長	仲田小学校	主幹教諭	秋 田 克 己
3	委 員	元渋谷区立常磐松小学校	元校長・学識経験者	會 田 満
4	委 員	元日野市立百草台小学校	元校長・学識経験者	吉 野 美智子
5	委 員	日野第二小学校	教 諭	吉 原 涼 子
6	委 員	日野第五小学校	教 諭	亀 田 貴 彦
7	委 員	日野第六小学校	教 諭	山 下 智 子
8	委 員	日野第七小学校	教 諭	木 村 拓 郎
9	委 員	平山小学校	教 諭	佐 野 敏 孝
10	委 員	東光寺小学校	教 諭	永 江 悟 大
11	委 員	七生緑小学校	非常勤教員	小 坂 克 信
12	委 員	市教委文化スポーツ課	係長・学芸員	金 野 啓 史
13	委 員	郷土資料館	学芸員	中 山 弘 樹
14	委 員	中央図書館	司 書	菅 野 尚 美
15	事務局	市教委学校課	指導主事	長 崎 将 幸
16	事務局	日野市立教育センター	所 員	小 杉 博 司

郷土教育推進研究協力者（敬称 略）

- ・由 木 勉 由木農場 現地見学会講師
- ・伊 藤 稔 農業指導者 野菜栽培指導講師
- ・奥 住 方 彦 農業指導者 梨園見学指導講師
- ・小 林 和 男 農業指導者 平山陸稲栽培指導講師
- ・笹 原 武 志 多摩平の森自治会長 現地見学指導講師
- ・杉 浦 銀 治 国際炭焼協会会長 炭焼指導講師
- ・荒 木 聖 男 旭が丘小学校 授業実践
- ・池 本 憲 昭 旭が丘小学校 授業実践
- ・奥 紗 織 旭が丘小学校 授業実践
- ・北 村 澄 江 郷土資料館 資料・情報提供
- ・渡 辺 生 子 日野図書館 資料・情報提供
- ・河 野 和 昌 教育センター I C T活用
- ・菊 川 民 雄 教育センター I C T活用

郷土教育推進研究報告書

平成 22 年度「郷土日野」指導事例 第 6 集

発行日 平成 23 年 3 月 31 日

発 行 日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

〒191-0042 日野市程久保 5 5 0

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

印 刷 日野テクニカルサービス（株）